J

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-2200

(YSP-CU2200 + NS-SWP600)

取扱説明書

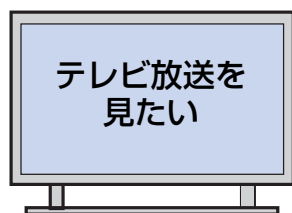
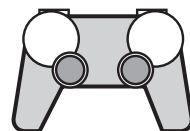
ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

●必ずはじめに「安全上のご注意」をお読みください（56ページ～58ページ）。

●本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

●保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

本機でできること

必ずはじめに「安全上のご注意」をお読みください（56 ページ～ 58 ページ）

HDMI リンク（HDMI コントロール）機能 p.22

シネマ DSP 機能 p.26

インテリビーム機能 p.16

ユニボリューム機能 p.25

iPod ／ iPhone の再生 p.32

もくじ

準備

接続・初期設定

再生

設定

困ったときは

付録

本書の記載について

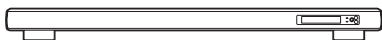
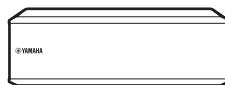
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- **ご注意** では、安全に関する重要な注意事項と操作方法を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合がございますのでご了承ください。
- 左ページの左端にリモコン図が表示されている見開きページは、リモコン図と操作キーを対応させてご覧ください。

はじめに

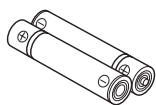
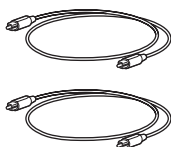
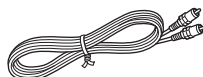
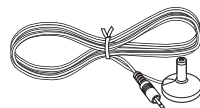
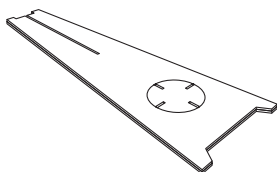
同梱品の確認

ご使用になる前に、同梱品がすべてそろっていることを確認してください。1)

YSP-2200 の構成

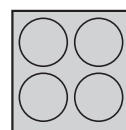
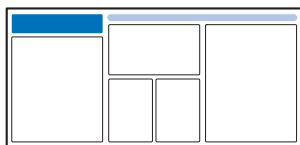
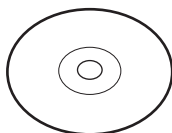
センターユニット（YSP-CU2200）：1 台

サブウーファー（NS-SWP600）：1 台

付属品

リモコン：1 個

単 3 乾電池：2 本

光ファイバーケーブル：2 本／ 1.5m

ビデオ用ピンケーブル（メニュー表示および iPod ビデオ表示用）：1 本／ 1.5m

インテリビームマイク：1 本／ 6m

簡易マイクスタンド：1 セット

IR フラッシャー：1 個／ 1m

転倒防止スタンド：4 個

スピーカーケーブル：1 本／ 3m

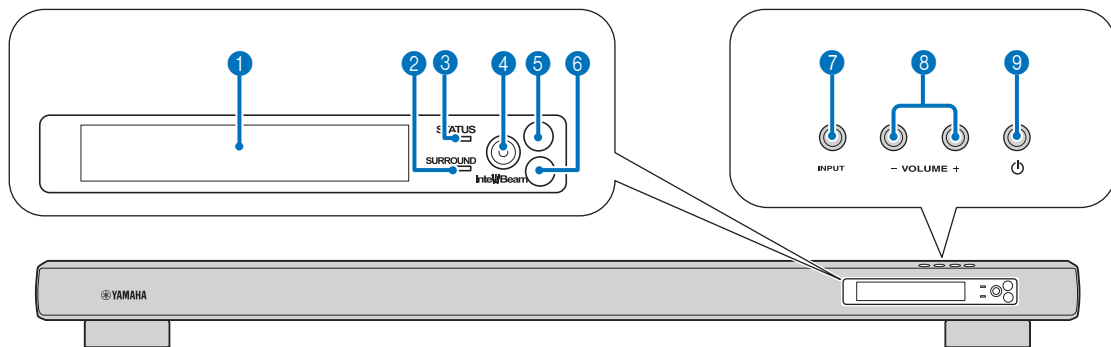
滑り止めパッド：4 個

簡易接続・操作ガイド：1 枚

サラウンド確認用 DVD：1 枚

サラウンド確認用 DVD 説明書：1 枚

取扱説明書（本書）：1 冊

1)

付属のケーブルは、接続状況によって余る場合があります。

各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面・上面）

❶ フロントパネルディスプレイ

再生の状態や設定値などを表示します（☞6 ページ）。

❷ SURROUND（サラウンド）インジケーター

入力信号に合わせて点灯します。

表示	入力信号
青	以下のフォーマットのサラウンド音声信号 ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューション、マルチチャンネルリニア PCM
オレンジ色	上記以外のサラウンド音声信号
消灯	無信号またはステレオ／モノラル音声信号

❸ STATUS（ステータス）インジケーター

システムの状態を表示します。

点灯	電源	HDMI コントロール（☞43 ページ）	Interlock（☞33 ページ）
緑	オン	–	–
赤	スタンバイ	オン	–
	スタンバイ	–	オン
消灯	スタンバイ	オフ	オフ

❹ INTELLIBEAM（インテリビーム）端子

付属のインテリビームマイクを接続します（☞17 ページ）。

❺ リモコン受光部

リモコンの赤外線信号を受信します（☞7 ページ）。

❻ テレビリモコン受光部

IR フラッシャーを接続している場合に、テレビのリモコンの赤外線信号を受信します。（☞10 ページ）。

❼ INPUT キー

再生する機器を選択します（☞24 ページ）。

❽ VOLUME +／– キー

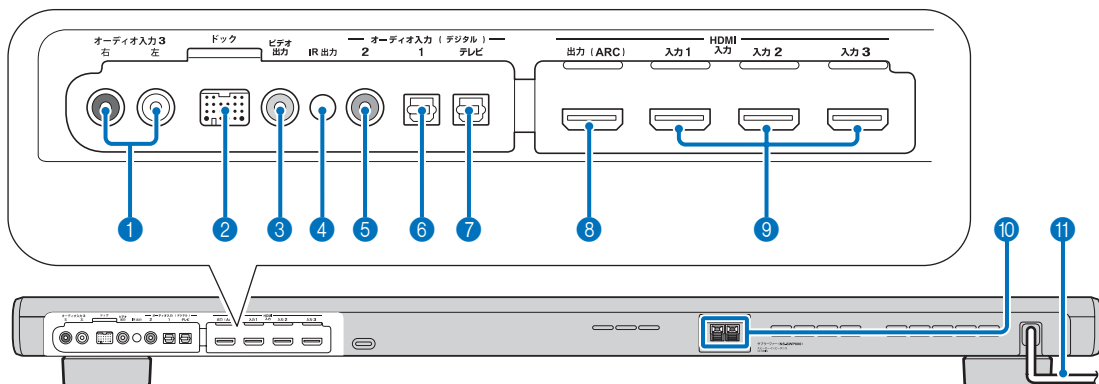
音量を調節します（☞24 ページ）。

❾ ⏻（電源）キー

電源のオン／スタンバイを切り替えます。

❗ご注意

スタンバイになっているあいだも、HDMI 信号を検知したり、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

リアパネル（背面）

❶ オーディオ入力 3 端子
外部機器とアナログ接続します（☞15 ページ）。

❷ ドック端子
別売のヤマハ製iPodユニバーサルドックやワイヤレスシステム、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを接続します（☞32、34 ページ）。

❸ ビデオ出力端子
テレビの映像入力端子と接続します（☞14 ページ）。

❹ IR 出力端子
IRフラッシャー（付属）を接続します。（☞10 ページ）。

❺ 同軸デジタル入力 2 端子
外部機器と同軸デジタル接続します（☞15 ページ）。

❻ 光デジタル入力 1 端子
外部機器と光デジタル接続します（☞15 ページ）。

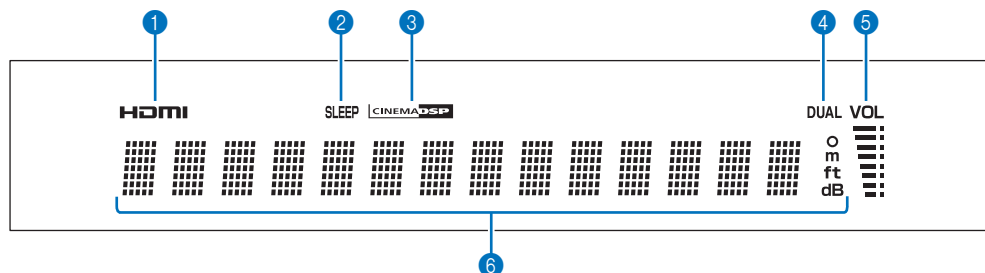
❼ 光デジタル入力テレビ端子
テレビと光デジタル接続します（☞14 ページ）。

❽ HDMI 出力（ARC）端子
テレビや他の外部機器とHDMI接続します（☞14 ページ）。

❾ HDMI 入力端子
ブルーレイディスクレコーダーやチューナー、ゲーム機などとHDMI接続します（☞14、15 ページ）。

❿ サブウーファー出力端子
スピーカーケーブル（付属）でサブウーファーと接続します。（☞14 ページ）

⓫ 電源コード
AC コンセントに接続します（☞14 ページ）。

フロントパネルディスプレイ

❶ HDMI インジケーター
HDMI信号を入力しているときに点灯します。

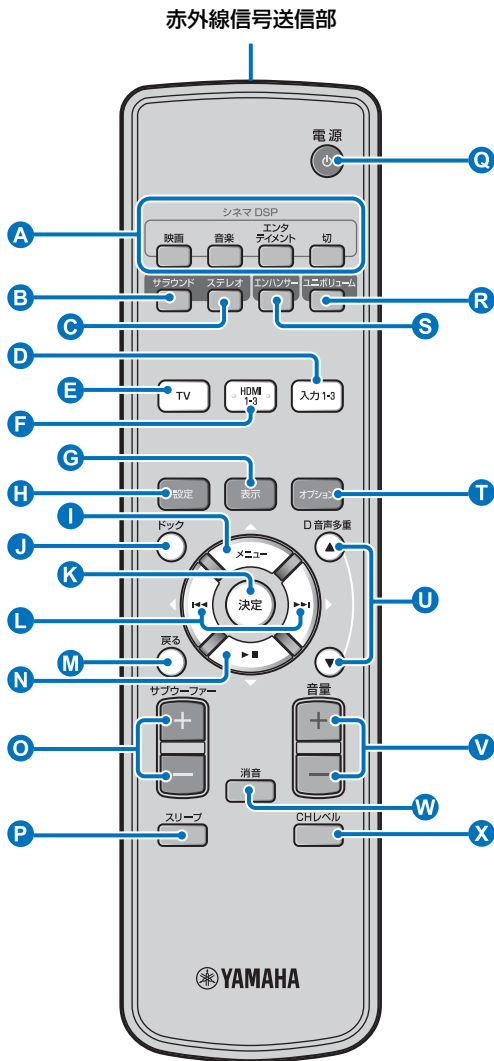
❷ SLEEP インジケーター
スリープタイマーを設定しているときに点灯します（☞31 ページ）。

❸ CINEMA DSP インジケーター
シネマDSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します（☞26 ページ）。

❹ DUAL インジケーター
BS／CS／地上デジタルの音声多重放送が入力されているときに点灯します（☞30 ページ）。

❺ VOLUME インジケーター
現在の音量を表示します（☞24 ページ）。

❻ マルチインフォメーションディスプレイ
設定値などの情報をアルファベットや数字で表示します。電源オン時には、再生する機器名と現在の音声出力方法が表示されます。

リモコン

A シネマ DSP
サラウンド再生時にシネマDSP音場プログラムを選択します（☞26 ページ）。

B サラウンドキー
サラウンド再生に切り替えます（☞26 ページ）。

C ステレオキー
ステレオ再生に切り替えます（☞25 ページ）。

D E F 入力選択キー
再生する機器を選択します（☞24 ページ）。

G 表示キー
フロントパネルディスプレイに表示する情報を以下のように切り替えます。

- Input ／ Output：入力名／サラウンド（ステレオ）モード
- DSP Program：シネマ DSP の音場プログラム（シネマ DSP 使用時のみ）
- Audio Decoder：使用中の音声信号デコーダー

H 設定キー
設定メニューに入ります（☞36 ページ）。

I K L N メニュー（△）キー、決定キー、⏮（◁）キー、⏭（▷）キー、▶II（▽）キー

- 設定を変更します（☞36 ページ）。
- iPod を操作します。

J ドックキー
iPod ／ iPhoneまたはBluetooth機器を選択します（☞32、34 ページ）。

M 戻るキー
ひとつ手前のメニュー表示に戻します。

O サブウーファー（＋／－）キー
サブウーファーの音量のバランスを調節します。

P スリープキー
スリープタイマーを設定します（☞31 ページ）。

Q 電源（⏻）キー
電源のオン／スタンバイを切り替えます（☞24 ページ）。

R ユニボリュームキー
ユニボリューム機能のオン／オフを切り替えます（☞25 ページ）。

S エンハンサーキー
ミュージックエンハンサーのオン／オフを切り替えます（☞25 ページ）。

Ⓣオプションキー
入力ソースごとの設定（オプションメニュー）に入ります（☞31 ページ）。

Ⓤ▲ ／ ▼ キー
- iPod ホイールを操作します（☞32 ページ）。
- ▲ キー：デジタル音声多重の設定を切り替えます（☞30 ページ）。

Ⓥ音量（＋／－）キー
音量を調節します（☞24 ページ）。

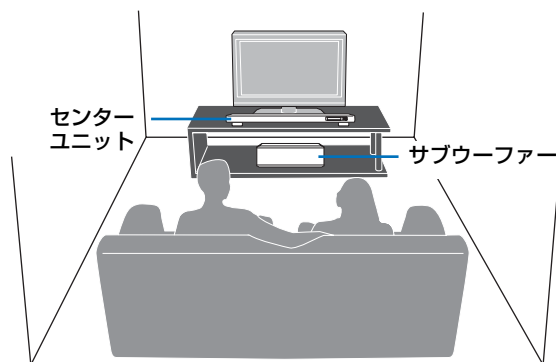
Ⓦ消音キー
一時的に消音します（☞24 ページ）。

ⓍCH レベルキー
再生中に音量バランスを調節します（☞25 ページ）。

設置と接続

十分なサラウンド効果を得るため、家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください（☞11 ページ）。設置の前に、ケーブルを本機に接続したほうがよい場合があります。その場合は、先に接続を行ってください（☞14 ページ）。

設置上のご注意

- 本機の設置には、十分な放熱スペースが必要です。本機の上部と後部に 5cm 以上スペースが開くように設置してください。
- 地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。
- ブラウン管式テレビなど、熱を出すものの上へは直接設置しないでください。
- 万一テレビに色ムラなどが生じるときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。

テレビの前面に人感センサーなど各種のセンサーや、3D グラス用の発信部がついていることがあります。センターユニットがそのセンサーや発信部を隠すことがありますが、その場合はテレビとセンターユニットの距離を離したり、センターユニットをラックの中に入れるなどしてください。

センターユニット

- 左右の壁の中央に設置してください。
- 視聴位置となるソファーなどが本機の正面になるように設置してください。
- 本機と視聴位置の間は 1.8m以上離してください。

サブウーファー

より良いサラウンド感を得るため、サブウーファーはセンターユニットになるべく近い場所に設置してください。

効果的なサラウンドのために

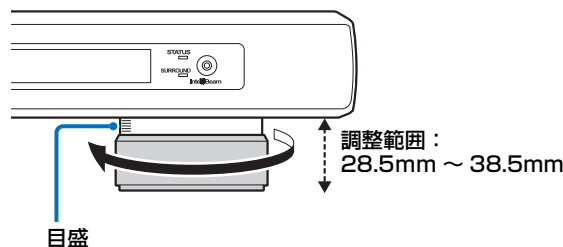
本機はビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

- ビーム経路上に壁がない部屋
- 壁の材質が吸音素材でできている部屋
- 部屋の大きさが幅 3m ～ 7m、奥行き 3m ～ 7m、高さ 2m ～ 3.5m にあてはまらない部屋
- 本機から視聴位置までの距離が 1.8m未満の場合
- ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋
- 壁に近いところに視聴位置がある場合
- 視聴位置が本機の正面にない場合

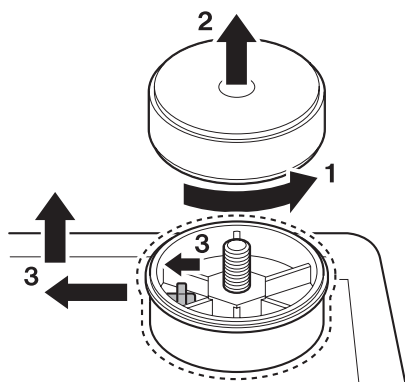
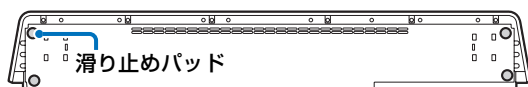
マイサラウンド機能

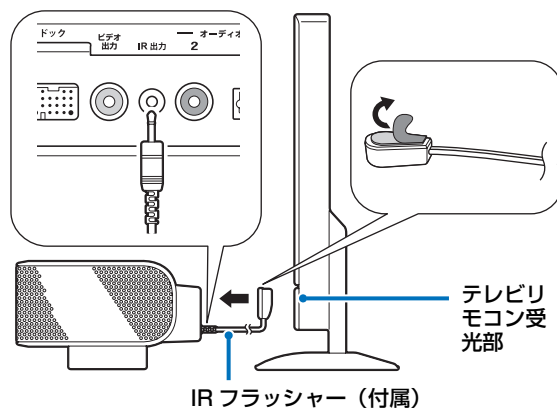
上記のような部屋の場合でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「サラウンドの音声出力方法を切り替える」（☞27、28 ページ）を参照してください。

センターユニットの高さを調節する

テレビのスタンドをまたいでセンターユニットを設置する場合は、脚部を左に回すことでセンターユニットの高さを上げることができます。左右脚部の内側にある目盛を確認しながら、左右で同じ高さになるように調節してください。目盛が0～10の範囲で調節してください。

脚部をはずす

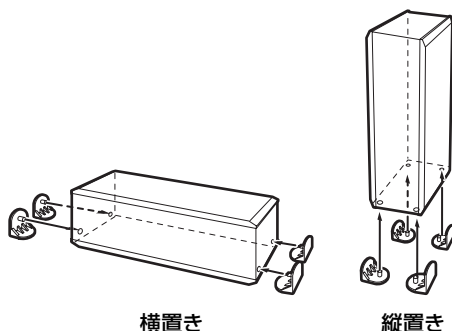
センターユニットがリモコン受光部や3Dグラス用の発信部などを隠す場合は、センターユニットを裏返し、以下のように脚部を取り外して滑り止めパッドを使用します。

1 脚部をさらに左に回す
2 脚部外側をはずす
3 脚部内側のツメを図のように中央方向に倒しながら、脚部内側全体を同じ方向に押して脚部内側をはずす

4 脚部がはずれた底面の四隅に、滑り止めパッド4枚（付属）を貼り付ける（下図は貼り付け位置の例です）

センターユニットがテレビのリモコン受光部を隠してしまう場合

本機前面でテレビのリモコン信号を受信し、IRフラッシャー（付属）を使ってテレビへ伝達します。IRフラッシャーの先端にあるLED部の剥離紙をはがし、図のようにリモコン受光部に近いセンターユニットのリアパネル側へ貼り付けるか、テレビのリモコン受光部に直接貼り付けてください。プラグはセンターユニット背面のIR出力端子へ接続してください。

ヒント

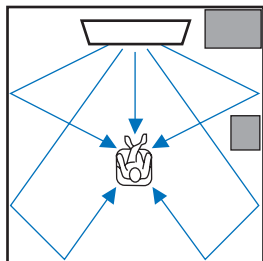
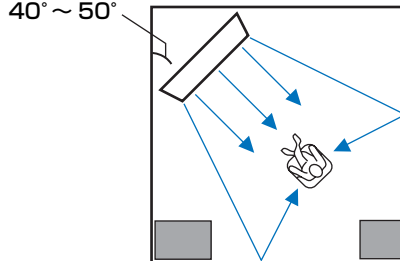
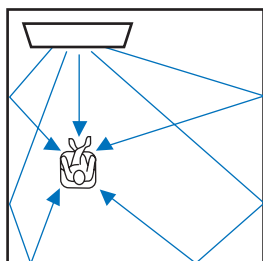
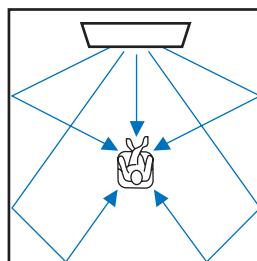
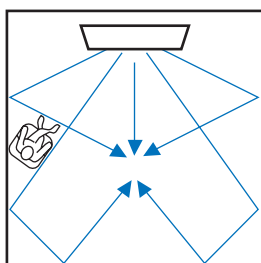
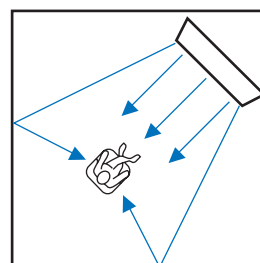
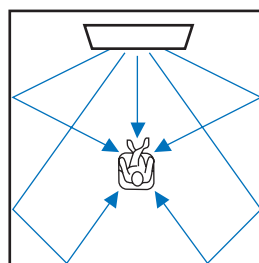
- IR フラッシャーを使用する場合は、テレビのリモコンをセンターユニットに向けて操作してください。
- この機能は本機がスタンバイ状態でも有効です。
- テレビによってはこの機能が動作しない場合があります。

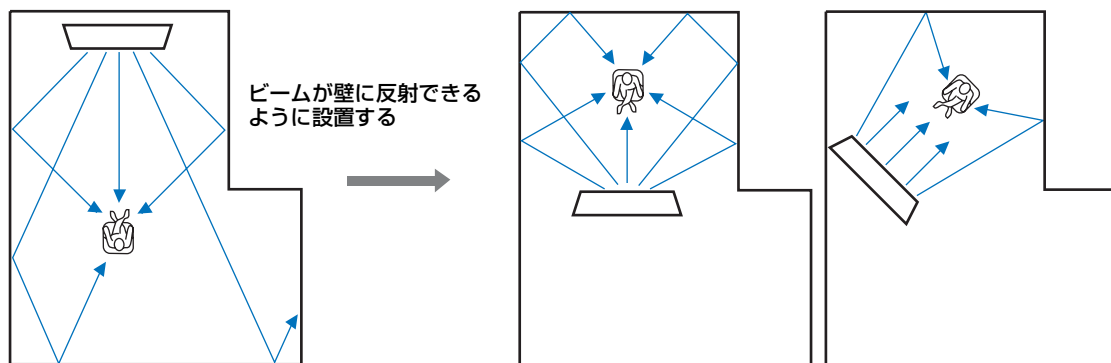
サブウーファーに転倒防止スタンドを取り付ける

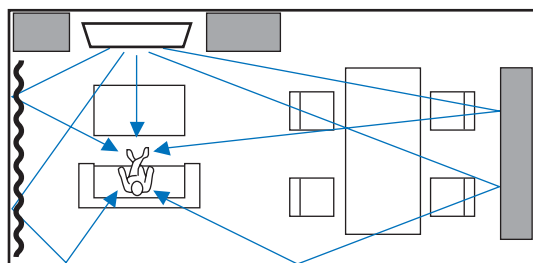
サブウーファーは転倒防止スタンドを取り付けてから設置してください。転倒防止スタンド（付属）のダボを、サブウーファー側面の四隅にあるダボ穴にはめてください。図のように、スタンドを付け替えることで横置きと縦置きが可能です。ラック中央に設置する場合は横置き、ラックの横に設置する場合は縦置きが便利です。

設置のポイント

本機は下図のように音声をビーム化して出力します。十分なサラウンド効果を得るために、下図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。
本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右の壁に近づきすぎないようにしてください。
本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が40°～50°の間におさまるように設置してください。

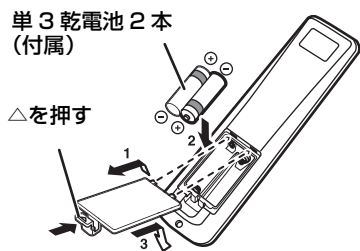
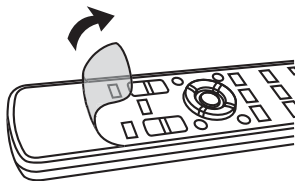
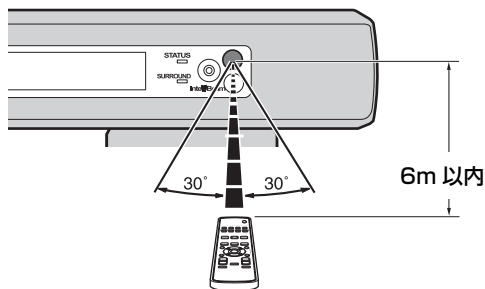
家具などの障害物

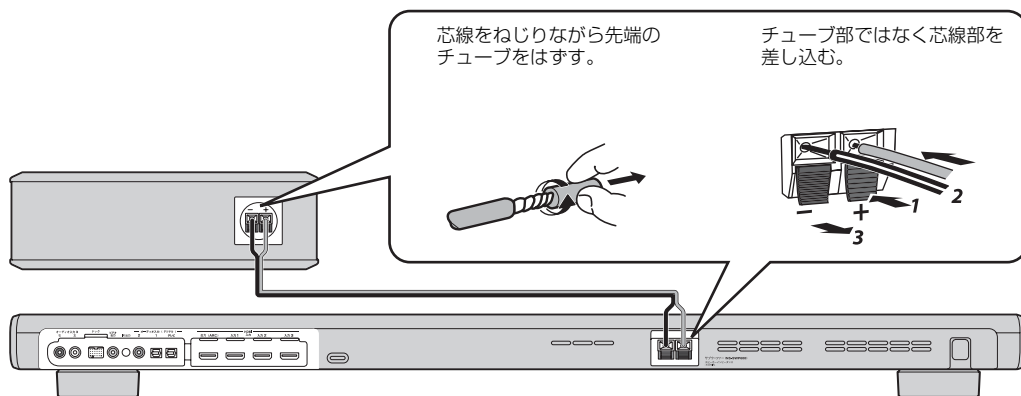
壁と平行に設置
〔5 ビームモードに設定した場合〕

コーナーに設置
〔ST + 3 ビームモードに設定した場合〕

壁と平行に設置する場合の本体の位置

理想的な視聴位置

できるだけ視聴位置の
正面に設置する

視聴位置となるソファーなどは本機から 1.8m 以上離れた位置に設置してください。

変則的な形の部屋に設置する場合

リビングへの設置例

- 通常テーブルなどはビームを通すため、障害にはなりません。また、壁に設置した戸棚などは音を反射します。
- 右図のような部屋の場合、自動設定の後に右チャンネルの位置を調整することでさらに正確なサラウンド感を得ることができます。（☞38 ページ）
- カーテンは音を吸収するため、開けたときと閉めたときで音の特性が変わります。メモリー機能を使うことで、それぞれの状態に最適な設定を保存できます。（☞21 ページ）

リモコンの準備

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」および「リモコン」をよくお読みください。

リモコンに電池を入れる

リモコンの外装保護シートは、はがしてご利用ください。

リモコンの操作範囲

サブウーファーの接続

- サブウーファー（付属）は必ず接続してください。
- 付属のサブウーファー以外は接続しないでください。
- スピーカーケーブル（付属）を接続する際は、サブウーファー端子の「+」とセンターユニットの「+」、また、サブウーファー端子の「−」とセンターユニットの「−」を合わせてください。

接続

- 電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。
- ケーブルプラグや端子に損傷をあたえる原因となりますので、プラグを差し込む際に強い衝撃をあたえないようにしてください。

テレビ、ブルーレイディスクレコーダーの接続

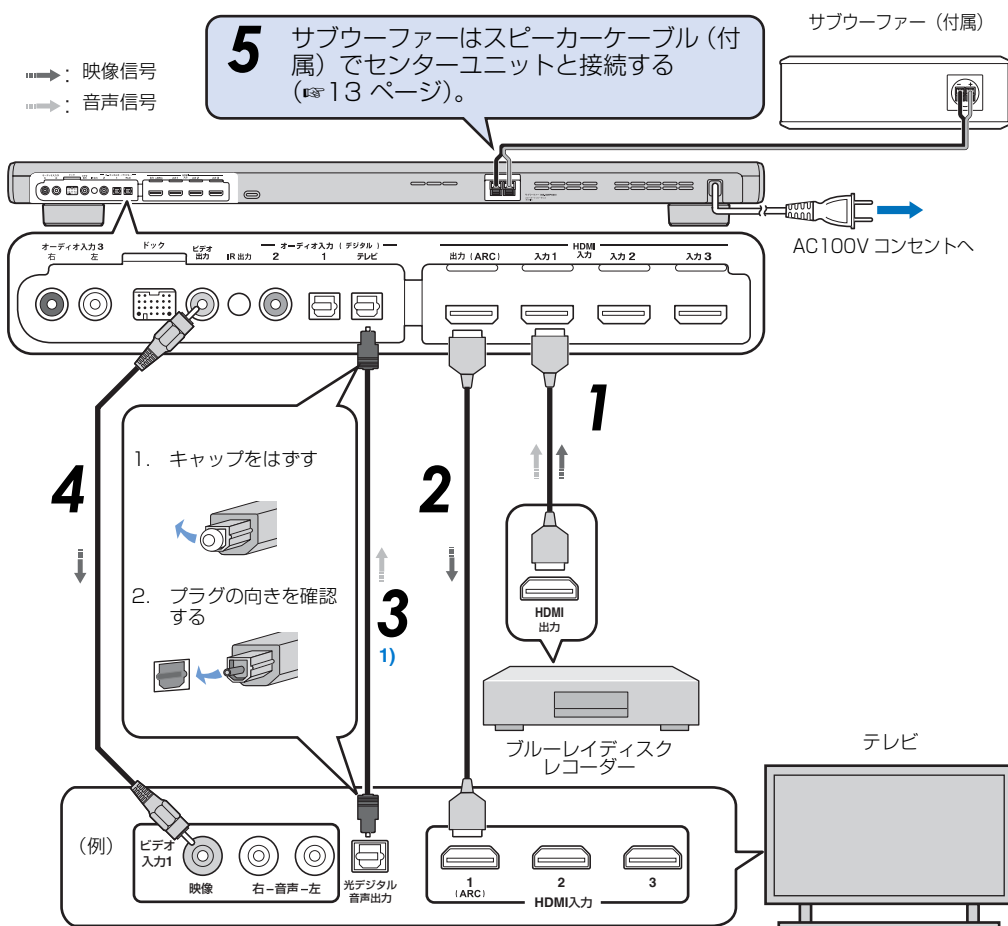
ケーブルは以下の順番で接続してください。

1 **HDMI ケーブル（別売）**
ブルーレイディスクのデジタル映像・音声を本機に入力します。

2 **HDMI ケーブル（別売）**
ブルーレイディスクのデジタル映像をテレビに映します。

3 **光ファイバーケーブル（付属）**
テレビのデジタル音声を本機で再生します。

4 **ビデオ用ピンケーブル（付属）**
本機のメニュー画面をテレビに映します。

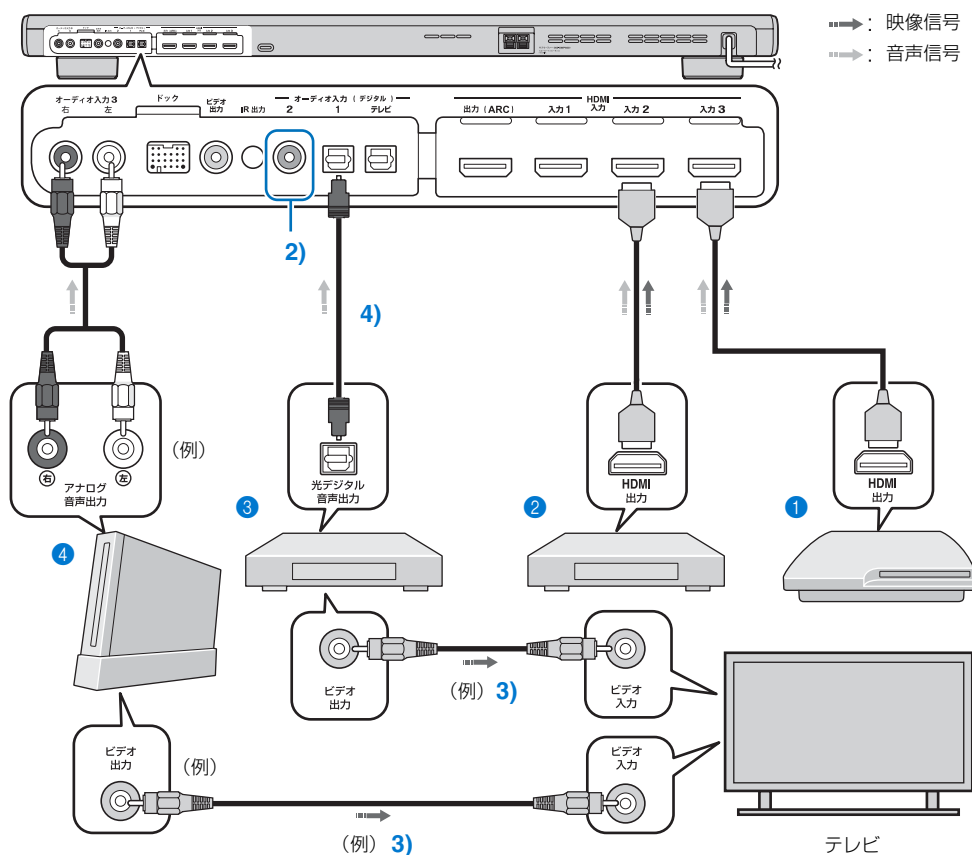
1)

オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビの場合

- HDMI ケーブルはテレビのオーディオリターンチャンネル対応端子（「ARC」などの表示のある端子）に接続してください。この場合、光ファイバーケーブルの接続は必要ありません。
- 本機の ARC を有効にするには、HDMI コントロール機能を有効にしてください（☞43 ページ）。

オーディオリターンチャンネル（ARC）とは？

テレビの出力するデジタルオーディオ信号を、HDMI ケーブルを通して本機へ伝送する機能です。この機能により、テレビから本機へ接続する光ファイバーケーブルを省略することができます。

ゲーム機やチューナーなどの接続

追加する外部機器（例）	接続ケーブル
❶ HDMI 対応のゲーム機	HDMI ケーブル（別売）
❷ 衛星放送、ケーブルテレビチューナー（HDMI 対応）	HDMI ケーブル（別売）
❸ 衛星放送、ケーブルテレビチューナー（HDMI 非対応）	光ファイバーケーブル（付属）3)
❹ HDMI 非対応のゲーム機	アナログ音声用ステレオピンケーブル（別売）3)

2) 追加機器で同軸デジタル出力端子がある機器の場合は市販のデジタル音声用ピンケーブルで本機同軸デジタル入力端子と接続してください。

3) テレビとゲーム機やチューナーを接続するため、別途映像用のケーブルが必要です。

4) 接続の際はキャップをはずしてください。

初めて使うときの設定

サラウンド効果の自動設定（インテリビーム）

部屋の形状と大きさ、本機が設置されている場所などは、ご家庭によってさまざまです。本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に各チャンネルの設定を調節する必要があります。
本機には、各チャンネルの設定を自動的に調節する「ビーム調整」および「音質調整」が搭載されています。この２つの機能を合わせてインテリビームといいます。「ビーム調整」とは、部屋の形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節する機能です。「音質調整」とは、部屋の音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節する機能です。
本機では、付属のインテリビームマイクを使用して、この２種類の設定を自動的に調節することができます。1)

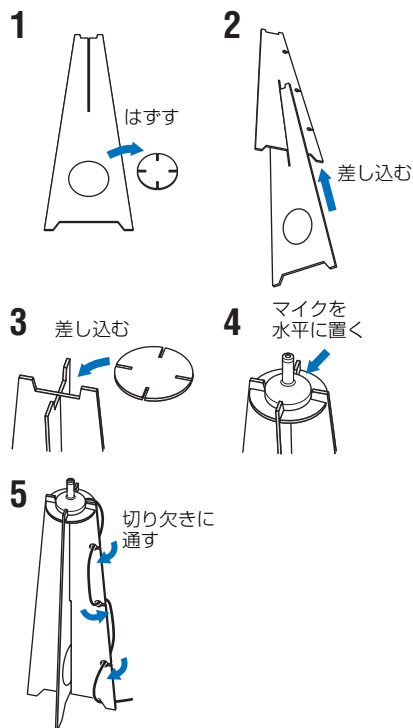
ご注意

- 部屋の環境が「効果的なサラウンドのために」（☞9 ページ）に記載されている項目にあてはまる場合は、測定が正しく行われないことがあります。その場合は「詳細設定」（☞37 ページ）を行ってください。
- インテリビームマイクを接続する際は、延長ケーブルを使用しないでください。測定が正しく行われないことがあります。
- 自動設定機能を使用していないときは、インテリビームマイクを INTELLIBEAM 端子からはずして保管してください。
- インテリビームマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や AV 機器の上など高温になる場所には置かないでください。

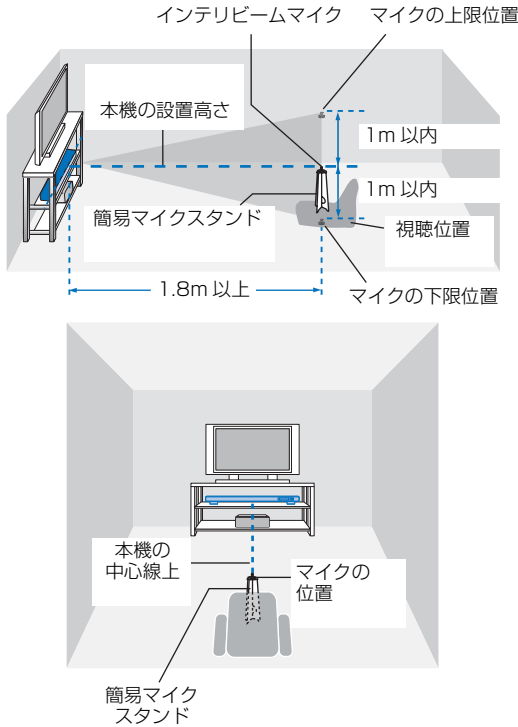
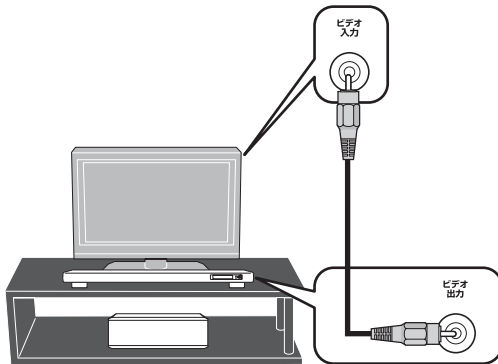
インテリビームマイクを設置する

1 インテリビームマイクを視聴位置に水平に設置する。

簡易マイクスタンド（付属）や三脚を利用して、できるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。

簡易マイクスタンドの組立て方法

ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

1)

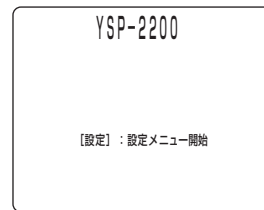
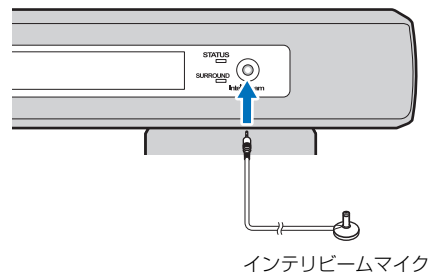
- 本機にインテリビームマイクを差すと自動的に「ビーム調整＋音質調整」の測定画面が表示されます。また、設定メニューから「ビーム調整」と「音質調整」を個別に選択することもできます（☞19 ページ）。
- 自動設定されたデータはメモリーに保存することができます（☞21 ページ）。部屋の状況に合わせてそれぞれのデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。

2 ビデオ用ピンケーブル（付属）が接続されていることを確認する。

測定と設定

ご注意

- 測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様が部屋にいる場合や部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 壁にカーテンやブラインドなどがかかっている部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのような部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。①カーテンやブラインドを開ける　②「ビーム調整」を行う　③カーテンやブラインドを閉める　④「音質調整」を行う
- エアコンなど騒音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

1 本機とテレビの電源をオンにする。

2 テレビの入力を「ビデオ入力 1」（例）に切り替える。

初期画面が表示されていることを確認してください。1)

3 インテリビームマイクを本機の INTELLIBEAM 端子に接続する。

次のページへ →

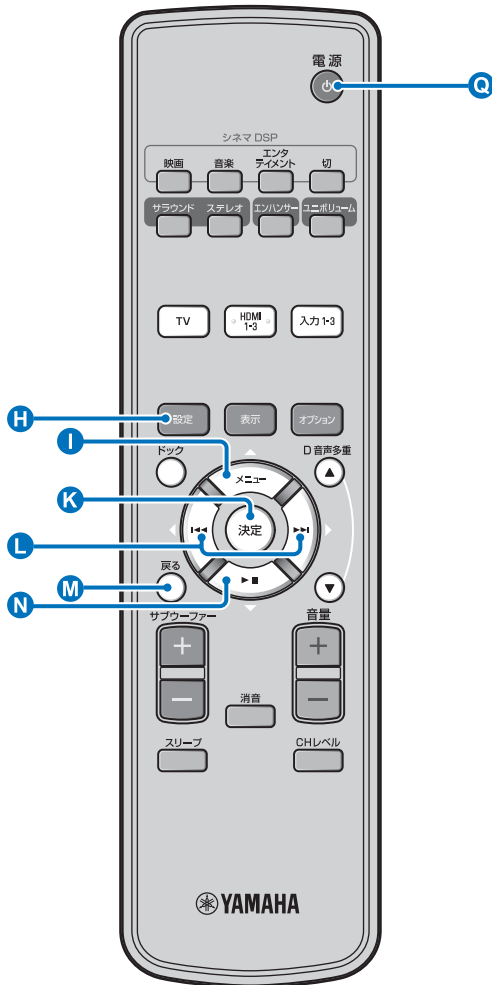
1)

初期画面が表示されない場合

以下のことを確認してください。

－テレビの入力端子と本機のビデオ出力端子が接続されているか。

－テレビの入力は「ビデオ入力 1」などに設定されているか。

準備
接続・初期設定
再生
設定
困ったときは
付録
安全上のご注意

インテリビームマイクを接続すると、以下の画面になります。1) 2)

自動設定（確認・準備）

マイクを接続してください。
マイクを本体の正面で1．8m以上離し、
正しい高さに設置してください。
測定にはおよそ3分かかります。
決定を押したら部屋から出てください。

［決定］：開始　［戻る］：中止

ご注意

次の手順を実行したあと、部屋から出てください。部屋の中にいると、ビーム経路を遮ってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、最適な設定が行われない場合があります。

4 Ⓚ決定キーを押して測定を開始し、10秒以内に部屋の外に出る。3)

自動設定開始

10秒後に測定を開始します。

部屋から出てください。

－－－－－－－－－－

［戻る］：中止

（約３分後）　測定中の項目にしたがって、画面が自動的に切り替わります。

測定結果

測定が終了しました。

ビームモード　：5ビーム／プラス2
サブウーファー：有

［決定］：設定する
［戻る］：設定しない

測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力されます。4)

1)

Ⓜ**戻るキー押して、設定メニュー画面が表示された場合**
Ⓗ設定キーを繰り返し押してメニュー画面を再度表示し、以下のように選択してください。
「自動設定」→「ビーム調整＋音質調整」

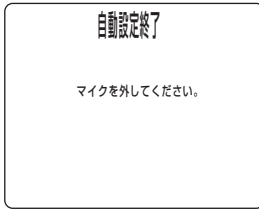
2)

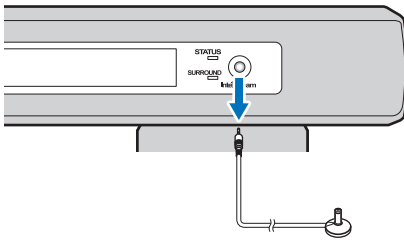
自動的に「ビーム調整＋音質調整」が選択されます。「ビーム調整」のみ、または「音質調整」のみを行う場合は、「設定メニューから自動調整する場合」（☞19 ページ）を参照してください。

3)

- 測定中は部屋の外でお待ちください。
- 測定開始から終了まで、最長で約３分かかります。
- 測定中に自動設定を中止したい場合は、Ⓜ戻るキーを押してください。

5 Ⓚ決定キーを押す。5)

測定結果を保存します。

6 マイクをはずす。

初期画面に戻ります。6)
マイクは大切に保管してください。

設定された測定結果は、電源を切っても初期設定値には戻りません。ただし、自動設定をやり直したり、詳細設定で設定値を変更した場合は、設定結果が上書きされます。
設定メモリー機能で複数の測定結果を保存することもできます（☞21 ページ）。

設定メニューから自動設定する場合

1 インテリビームマイクを設置し、Ⓗ設定キーを押す。

2 Ⓘ△／Ⓝ▽ キーで「自動設定」を選択し、Ⓚ決定キーを押す。

3 Ⓘ△ ／Ⓝ▽ キーで次の選択項目の中からいずれかを選択し、Ⓚ決定キーを押す。

選択項目：
「ビーム調整＋音質調整」
購入後、初めて設定を行う場合に選択します。測定開始から終了まで約３分です。

「ビーム調整」
ご利用の環境に合わせてビーム角度のみ設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約１分です。
「音質調整」
音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約２分です。
「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。カーテンの開閉後、またはビーム角度を「ビーム調整」で調節したあとなどにご使用ください。

4 「自動設定（確認・準備）」画面が表示されたら、インテリビームマイクを本体に接続する。

インテリビームマイクの設置・接続については「インテリビームマイクを設置する」（☞16 ページ）をご覧ください。

5 「測定と設定」の手順 4、5、6 を参照し、設定をしたあと、マイクをはずす。7)

エラーメッセージとエラー後の操作について

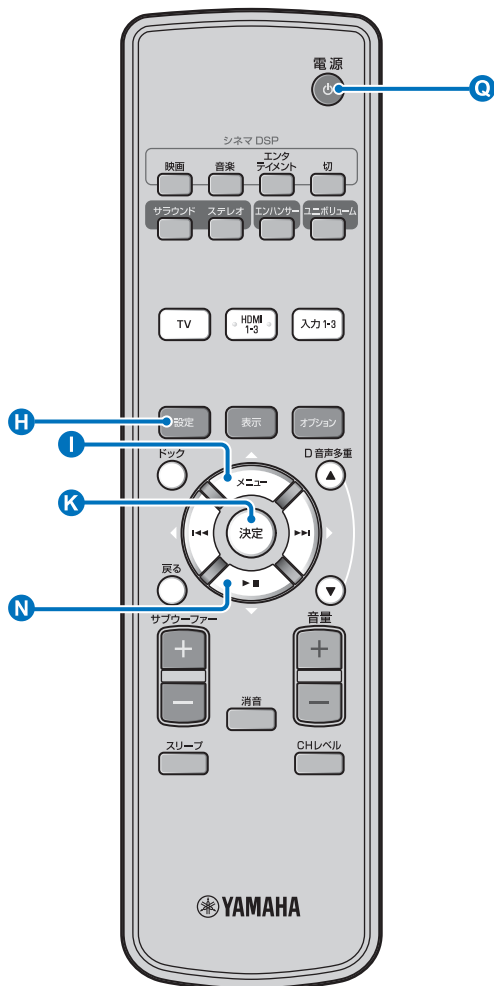
テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は、原因を確認し問題を解決してください。
「エラー E-1」の場合：Ⓚ決定キーを押して再度測定してください。Ⓛ▷キーを押して測定を続行することもできます。
「エラー E-7」または「エラー E9」の場合：Ⓠ電源（⏻）キーを押して本機をスタンバイにしたあと、再び電源を入れて測定してください。
その他のエラーの場合：Ⓜ戻るキーを押す。
エラーが解決できない場合は、手動で設定してください（☞36 ページ）

エラーメッセージの詳細は次のページへ ➡

4)
エラー音（ブザー音）が出力された場合、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージとエラー後の操作について」（☞19 ページ）を参照してください。
- 「環境チェック　：エラー」と表示された場合は、正確に測定されていない可能性があるので 20 ページのエラー E- 1 を参照し、Ⓜ戻るキーを押してから、再度測定することをおすすめします。
- 「ビームモード：５ビーム」と表示された場合でも、部屋の状況によっては、フロントビームとサラウンドビームが同じ角度に設定されることがあります。

5)
測定結果を設定しない場合はⓂ戻るキーを押してください。画面は初期表示に戻ります。

6)
設定メニューから自動設定を行った場合は、設定メニューのメニュー選択画面に戻ります。

7)
測定開始後は、部屋の中にいると、ビーム経路を遮ってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、最適な設定が行われない場合があります。

エラー　E-1: 環境ノイズが大きすぎます。再度、実行してください。	
原因	対策
騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。
	周囲が静かな時間帯にやり直してください。

エラー　E-2: マイクの接続を確認してください。再度、実行してください。	
原因	対策
インテリビームマイクが接続されていません。	本機前面の INTELLIBEAM 端子にインテリビームマイクを接続してください。

エラー　E-3: 測定中に操作されました。再度、実行してください。	
原因	対策
測定中に音量の調節、消音などの操作が行われました。	測定中は本機を操作しないでください。

エラー　E-4: マイクを本体の正面に設置してください。再度、実行してください。	
原因	対策
インテリビームマイクが本機正面に置かれていません。	インテリビームマイクを本機正面に設置してください。

エラー　E-5: マイクを本体から 1.8m 以上離して設置してください。再度、実行してください。	
原因	対策
インテリビームマイクが本機から 1.8m 未満の場所に設置されています。	インテリビームマイクを本機から 1.8m 以上離して設置してください。

エラー　E-6:　マイクから十分な入力がありません。マイクの接続・設置位置を確認してください。再度、実行してください。	
原因	対策
テスト音が取得できません。	インテリビームマイクを正しく接続、設置してください。

エラー　E-7: エラーです。パワーをオフした後、再度、実行してください。	
原因	対策
本機内部にエラーが発生しました。	Q 電源（⏻）キーを押して本機をスタンバイにしたあと、再び電源を入れて測定してください。

エラー　E-9：パワーをオフにした後、サブウーファーの接続を確認してください。	
原因	対策
サブウーファーが接続されていません。	Q 電源（⏻）キーを押して本機をスタンバイにしたあと、サブウーファーを接続してください（☞13 ページ）。接続後、再び測定してください。

複数環境の設定の保存（設定メモリー機能）

３種類の異なる設定を本機に保存し、状況に応じて使い分けられます。例えば、ビーム経路上にカーテンなどの吸音物がある場合はビームの効果が減少します。そこで、カーテンを開けた状態の設定と閉じた状態の設定を別々に保存し、開閉に応じてそれぞれのメモリーを呼び出します。これにより、状況に応じた最適なサラウンド効果が楽しめます。

カーテンの開閉に応じて設定を使い分ける場合、以下のように設定することをおすすめします。
1) カーテンを開けた状態で「ビーム調整＋音質調整」（☞19 ページ）を行い、「メモリー 1」に保存する
2) カーテンを閉めた状態で「音質調整」（☞19 ページ）を行い、「メモリー 2」に保存する

測定結果をメモリーに保存する

1 Ⓗ**設定キーを押す。**

2 **「メモリー」を選択し、Ⓚ決定キーを押す。**

3 **Ⓘ△ ／ Ⓝ▽ キーで「メモリー保存」を選択し、Ⓚ決定キーを押す。**

4 **Ⓘ△ ／ Ⓝ▽ キーでいずれかのメモリー番号を選択し、Ⓚ決定キーを押す。** 1)

選択項目：メモリー1、メモリー2、メモリー3
メモリー番号を選択すると、「メモリー 1、保存？」と表示されます。

5 Ⓚ**決定キーを押す。**

「メモリー 1、保存中…」と表示され、設定が保存されます。

保存したメモリーを呼び出す

1 Ⓗ**設定キーを押す。**

2 **「メモリー」を選択し、Ⓚ決定キーを押す。**

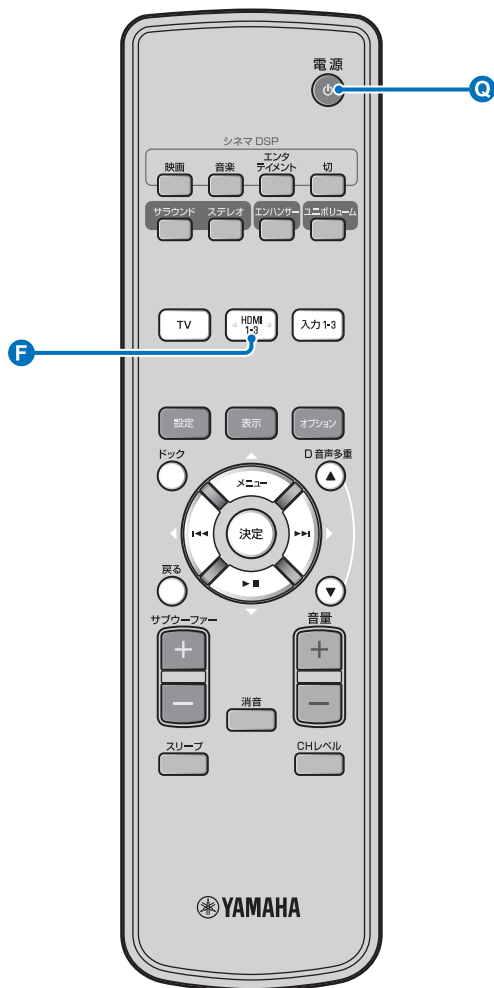
3 **Ⓘ△ ／ Ⓝ▽ キーで「メモリー呼び出し」を選択し、Ⓚ決定キーを押す。**

4 **Ⓘ△ ／ Ⓝ▽ キーでいずれかのメモリー番号を選択し、Ⓚ決定キーを押す。**

選択項目：メモリー1、メモリー2、メモリー3
メモリー番号を選択すると、「メモリー 1、呼び出し？」と表示されます。

5 Ⓚ**決定キーを押す。**

「メモリー 1、呼び出し中…」と表示され、メモリーが呼び出されます。

1)
- 選択したメモリー番号に設定がすでに保存されている場合、新しい設定を上書きします。
- 拡張メニューの「MEMORY PROTECT」が「ON」になっている場合は、メモリー機能を設定することができません。

テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能）

HDMI コントロール機能とは

HDMIを使用したコントロール機能（リンク機能）に対応しているテレビ（一部を除く）と本機をHDMIケーブルで接続した場合、テレビのリモコンで本機を操作できます（例：レグザリンク）。操作できる機能は主に以下の４つです。1)

テレビのリモコン（例）

このほか一部のテレビでは以下の機能を操作できます。

- デジタル放送のジャンル情報に合わせて最適なサラウンドモード（☞26 ページ）を自動的に選択（おまかせサラウンド機能）。2)
- ユニボリューム機能のオン／オフ
- デジタル音声多重の切り替え

1)

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているブルーレイディスクレコーダーなどを HDMI で接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくはご使用の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記 WEB サイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/

2)

おまかせサラウンド機能

- おまかせサラウンド機能を使うには、対応するテレビと本機を HDMI ケーブルで接続し、HDMI コントロール機能を有効にしてください（☞43 ページ）。
- 対応するテレビについては下記WEBサイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/omakase_surround/

HDMI コントロール機能の設定

1 HDMI で接続しているすべての機器の電源をオンにする。

2 HDMI で接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。

本機側では、「HDMIコントロール」が「オン」に設定されていることを確認します（☞43ページ）。3)
外部機器側については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。4)

3 テレビの電源を一度オフにし、再びオンにする。

HDMI 機器のテレビへの登録 5)

1 テレビの入力を本機に切り替える。

2 本機に接続した、HDMI コントロール機能に対応しているブルーレイディスクレコーダーなどの電源をオンにする。

3 本機の入力をブルーレイディスクレコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。

ブルーレイディスクレコーダーをHDMI入力1端子で接続している場合、Ⓕ入力選択キーを1回押して下図のように表示させます。

入力ソース名

HDMI1

4 テレビのリモコンを使って本機の電源をオンにしたり、音量を調節したりして、本機が正しく連動しているか確認する。

連動機能が動作しないときは

以下のことをご確認ください。
— テレビが本機のHDMI出力（ARC）端子に接続されている
— 「HDMIコントロール」（☞43ページ）が「オン」に設定されている
— テレビ側の設定でHDMIコントロール機能が有効になっている（電源連動機能や優先スピーカーの設定など関連する設定も確認してください）

それでも連動機能が動作しない場合は、
— 本機·テレビの電源をオン／オフしてください。
— 本機およびHDMI接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30秒ほど経ってから、接続し直してください。
— 入力1、入力2、入力3またはドックを選択したあとは、テレビの入力と本機の入力をそれぞれ同じものに切り替えてください。

接続方法や接続機器を変更する

接続する機器や端子を変更した場合は以下の手順で再設定してください。

1 一度テレビやレコーダーのHDMIコントロール機能をオフにしてから、すべての機器の電源をオフにし、接続を変更する。

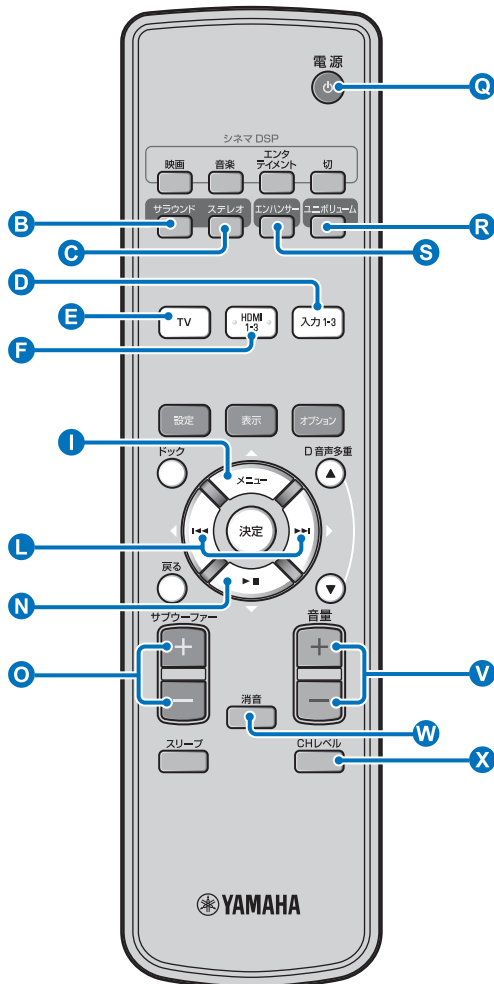
2 「HDMIコントロール機能を設定」の手順1～3を再度操作する。

---

3)
- 初期設定では「オン」に設定されています。
- **「HDMIコントロール」が「オン」に設定されているとき**
  – Ⓠ ⏻（電源）キーを押しても、完全な電源オフ状態にはならず、HDMI入力端子からHDMI出力（ARC）端子へ信号が出力されます。
  – 電源を切る前に、視聴したい機器が接続されたHDMI入力（1～3）端子を選択しておく必要があります。
  – テレビによっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される場合があります。

4)
テレビの設定の例
- 設定メニューから「リンク設定」→「HDMI連動設定」（例）を選択し、「HDMI連動機能」などの項目を「連動する（使用する）」に設定してください。
- 「優先スピーカー」などの設定は「AVアンプ」にしてください。

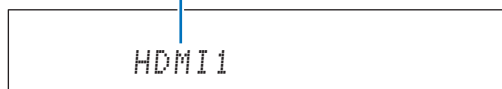
5)
HDMI コントロール機能を設定するだけで本機能を使用できるHDMI機器もあります。この場合、HDMI機器のテレビへの登録は必要ありません。

再生

再生の基本手順

1 Ⓠ 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 本機に接続した機器（テレビ、ブルーレイディスクレコーダー、ゲーム機など）の電源をオンにする。

3 外部機器の接続に合わせて、入力選択キー（Ⓓ、Ⓔ、Ⓕ）を押して、聴きたい機器の入力を選ぶ。

例えば、HDMI 入力 1 端子に接続したブルーレイディスクレコーダーを再生する場合、Ⓕ入力選択キーを押して、HDMI1 を選択して、下記のように表示させます。

4 手順 3 で選択した機器を再生する。

5 音量を調節するには、Ⓥ音量（＋／－）キーを押す。1) 2) 3)

サブウーファーの音量を調節するには、Ⓞサブウーファー（＋／－）キーを押す。4)

6 サラウンドモード、ステレオモードなどを選び、お好みのサウンドに設定する。（☞25 ページ）

使用後は、Ⓠ 電源（⏻）キーを押し、本機の電源をスタンバイにする。

1)

テレビのスピーカーと本機の両方から音声が出力されている場合は、テレビを消音にしてください。

2)

一時的に消音にするには

リモコンのⓌ消音キーを押します。消音機能を使って再生しているときは、フロントパネルディスプレイの VOLUME インジケーターが点滅します。消音を解除するには再度Ⓦ消音キーを押すかⓋ音量（＋／－）キーを押します。

3) **ご注意**

HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンのⓋ音量（＋／－）キーやⓌ消音キーを押しても音量は変化しません。

4)

- サブウーファーの音量は音量と独立して設定ができます。
- 夜はサブウーファーの音量を絞るなどしてお楽しみいただくことをおすすめします。

お好みのサウンドを楽しむ

ステレオとサラウンドの切り替え

ステレオで再生する場合

Ⓒステレオキーを押して、ステレオモードに切り替える。

サラウンドで再生する場合

Ⓑサラウンドキーを押してサラウンドモードに切り替える。

MP3 や WMA などの圧縮音声を豊かに再生する（ミュージックエンハンサー）

MP3 や WMA などの圧縮音声を、低音域と高音域を強調、拡張してダイナミックに再生します。

Ⓢエンハンサーキーを押して、機能のオン／オフを切り替える。 5)

音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム）

テレビを視聴中、以下のような場合に、過大な音量の差を補正して聞きやすくします。

- チャンネルを切り替えた
- 番組から CM へ変わった
- 番組が終わって次の番組が始まった

Ⓡユニボリュームキーを押して、機能のオン／オフを切り替える。 6)

各チャンネルの音量バランスの調整

再生しながら、各チャンネルの音量バランスを調節することができます。7)

1 **ⓍCH レベルキーを押す。**

2 **Ⓘ△／Ⓝ▽ キーを押して、以下から調節したいチャンネルを選択する。**

Left Lv：フロント左
Right Lv：フロント右
Center Lv：センター
Sur.L Lv：サラウンド左
Sur.R Lv：サラウンド右
SWFR Lv：サブウーファー

マイサラウンド（My Sur.）を選択しているとき（☞28 ページ）
CenterLv：センター
SurLR Lv：サラウンド左右
SWFR Lv：サブウーファー

3 **Ⓛ◁／▷ キーを押して、音量レベルを調節する。** 8)

調節範囲：－ 10.0dB ～ +10.0dB

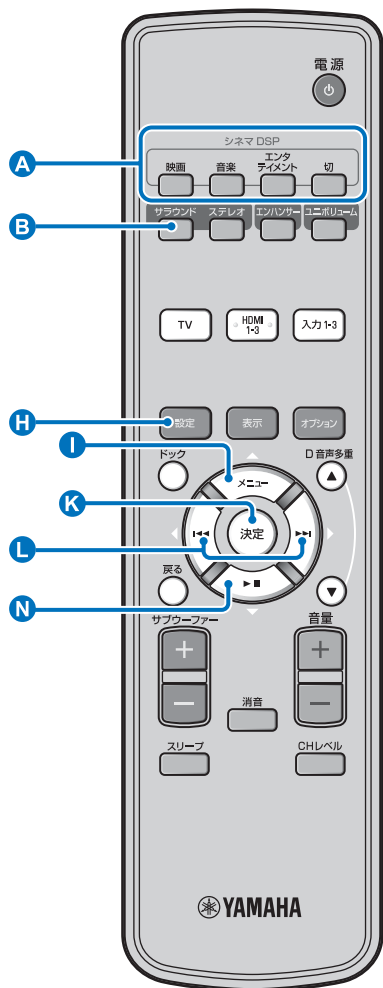
4 **ⓍCH レベルキーを押して、設定を終了する。**

---

5)
- DOCK（ドック）入力時はオン、DOCK（ドック）以外の入力時はオフに初期設定されています。
- 次のデジタル音声信号の場合、ミュージックエンハンサーは動作しません。
  －ドルビー TrueHD、DTS-HD マスターオーディオなどの信号
  －サンプリングレートが 48kHz を超える信号

6)
- 初期設定ではオンに設定されています。
- ユニボリュームをオフにするには、Ⓡユニボリュームキーを押してください。
- 音楽ソースを再生するときは、オフにすることをおすすめします。

7)
テスト音を聴きながら調節する場合は「各チャンネルの音量バランスの設定」（☞41 ページ）を参照ください。

8)
音量バランスの調整例
- セリフが聞き取りにくい場合：Center Lv（センター）を選び、レベルを上げます。
  音の包囲感が少ない場合：Sur. L Lv (サラウンド左）と Sur.R Lv（サラウンド右）を選び、レベルを上げます。
- サブウーファーの音量はⓄサブウーファー +／－キーを使用して調整することもできます。

臨場感のあるサラウンド音声を楽しむ（シネマ DSP）

ヤマハ独自のシネマDSP技術を用いてサラウンドで再生します。1)

1 Ⓑサラウンドキーを押して、サラウンドモードに切り替える。

2 選択したいⒶシネマ DSP キーを繰り返し押す。2) 3)

選択したプログラムがフロントパネルディスプレイに表示され、CINEMA DSPインジケーター（☞6 ページ）が点灯します。

映画

SFX
音楽および効果音が、SFの映像空間をリアルに表現します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に適しています。

Adventure（アドベンチャー）
音の立体感が強く、アクションならではの痛快な臨場感をつくりだします。

Spectacle（スペクタクル）
ワイドな空間をイメージできる臨場感をつくりだします。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に適しています。

音楽

Music Video（ミュージックビデオ）
ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。映像／音場空間がスクリーン周囲に大きく広がり、熱狂的な雰囲気を感じることができます。

Concert Hall（コンサートホール）
ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールの１階座席にいるような臨場感をつくりだします。豊麗な響きと落ち着いた雰囲気を感じることができます。

Jazz Club（ジャズクラブ）
ニューヨークにかつて存在したライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面にいるような臨場感をつくりだします。左右の幅が広く、リアルな躍動感を感じることができます。

1)

シネマ DSP（デジタル・サウンドフィールド・プロセッサー）とは？
世界の著名なコンサートホールや劇場などで測定したデータに基づく音場（音の広がり）技術を応用することにより、ご家庭で映画館のような視聴体験を実現する機能です。

2)

次の場合はシネマ DSP の機能は無効です。
- ブルーレイディスクなどのHDオーディオ信号を再生している
- サンプリング周波数が96kHzを超える信号を再生している
- マイサラウンド機能を使用している場合（☞28 ページ）
- ステレオモードで再生している場合

エンタテイメント
Sports（スポーツ） スポーツ中継のステレオ放送では、解説は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がって、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。
Variety（バラエティー） トークの聞き取りやすさはそのままに、客席の賑やかさが周りを包み込んで、番組の楽しさが倍増します。バラエティー番組、トークショーなどをライブ感豊かに楽しめます。
Drama（ドラマ） セリフは明瞭さを保ちつつ質感を高め、効果音やBGMには自然な雰囲気と立体感を与えます。シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの番組に対応します。
Game（ゲーム） RPGや、アドベンチャーゲームなどに最適な音場です。映画用の音場効果などを用いて、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を楽しめます。
Mch Stereo（マルチチャンネルステレオ） フロントおよびサラウンドの左からは左チャンネルの音声を、フロントおよびサラウンドの右からは右チャンネルの音声を出すことで、広いエリアでステレオ音声をお楽しみいただくことができます。ホームパーティーなどを行うときに最適です。

切（DSP Off）
Sur.Decoder（サラウンドデコーダー） シネマDSPを使わず、サラウンドで再生します。

サラウンドの音声出力方法を切り替える

サラウンド再生時の出力チャンネル数やビームの出力方法を設定します。

1 Ⓗ設定キーを押す。

2 Ⓘ△／Ⓝ▽キーとⓀ決定キーを押して、「Sound Setup」（サウンド設定）を選択する。

3 Ⓘ△ ／Ⓝ▽ キーと決定キーを押して、「Sound Out」（サウンド出力）を選択する。

4 Ⓘ△ ／Ⓝ▽ キーと決定キーを押して、「Ch Out」（チャンネル出力）を選択する。

5 Ⓛ◁／▷キーを押して、出力するチャンネル数を選択する。

選択項目：5.1ch、7.1ch、Auto ch（自動）*4)

6 Ⓝ▽キーを押して、「Sur.」（サラウンド）を選択する。

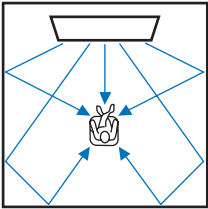
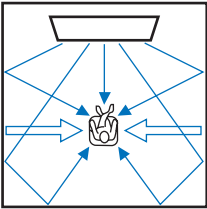
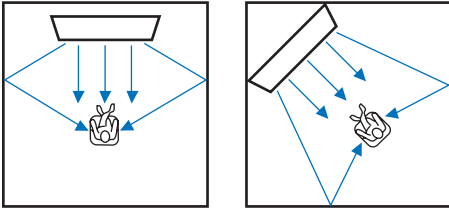
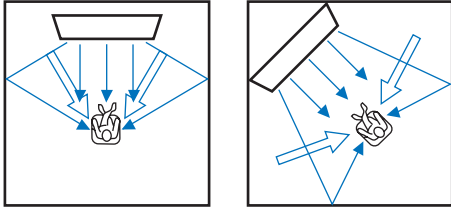
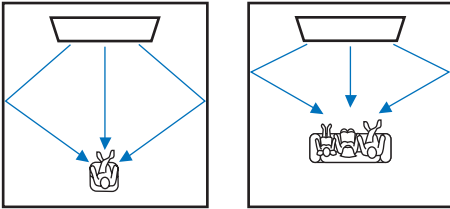
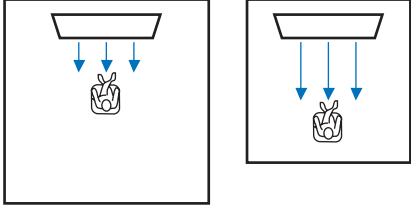
7 Ⓛ◁／▷キーを押して、設定するサラウンド出力方法を選択する。

選択項目：
（5.1ch 選択時）5Beam、St+3Beam、3Beam、My Sur.
（7.1ch選択時）5Beam+2、St+3Beam2、3Beam、My Sur.

8 Ⓗ設定キーを押して、設定を終了する。

選択項目について詳しくは次のページへ ➡

3)
入力ごとに設定されたモードを記憶します。他の入力を選択すると、自動的に前回設定されたモードになります。

4)
- 設定値の「*」は初期設定を表しています。
- 「Auto ch」（自動）に設定された場合
  入力信号が2ch／5.1chの場合→ 5.1ch出力
  入力信号が6.1／7.1chの場合→ 7.1ch出力

「Sur.」（サラウンド）の選択項目

	「5.1ch」	「7.1ch」
映画などでサラウンドの効果を存分に味わいたい場合	**5Beam（5ビーム）** フロント左／右、センター、サラウンド左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。	**5Beam+2（5ビーム プラス2）** フロント左／右、センター、サラウンドバック左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。サラウンド左／右チャンネルはフロント左／右、サラウンドバック左／右チャンネルにミックスされます。
ライブ映像などを鑑賞する場合	**St+3Beam（ステレオ+3ビーム）** フロント左／右のステレオ音声に加え、センター、サラウンド左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。サラウンド左／右チャンネル音声出力はフロント左／右チャンネルのビームを使用します。	**St+3Beam2（ステレオ+3ビームプラス2）** フロント左／右のステレオ音声に加え、センター、サラウンドバック左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。サラウンド左／右チャンネル音声出力はフロント左／右チャンネルのビームを使用します。
家族で映画を見るときや、後方の壁に近い位置で鑑賞する場合	**3Beam（3ビーム）** フロント左／右、センターの各チャンネルからビーム音声を出力します。その他のチャンネルはフロント左／右にミックスされます。 	
視聴位置が本機から近い場合や、部屋の都合でサラウンド効果が十分に得られない場合	**My Sur.（マイサラウンド）** 視聴位置が本機正面の場合に効果を発揮します。他のサラウンド出力方法の設定ではサラウンド効果が十分に得られない環境でもサラウンド感溢れる音声を楽しむことができます。 	

サラウンドデコーダーの設定

サラウンドモードで２チャンネルや5.1チャンネルのソースを再生する場合、本機はサラウンドデコーダーを使用して最大7.1チャンネルで再生します。1)
サラウンドデコーダーはそれぞれ特長があるため、使用するデコーダーを切り替えることによってサラウンド効果を調整することができます。2)

オプションメニューで「Sur.Dec.Mode」を選択し、設定する。

オプションメニューの操作は、入力ソースごとの設定を変更する（オプションメニュー）（☞31 ページ）を参照してください。

選択できるデコーダーとおすすめのソース

2ch→5ch

デコーダー		おすすめのソース
PRO LOGIC（ドルビープロロジック）	—	すべてのソース
PLII（ドルビープロロジック II）	Movie Music Game	映画 音楽 ゲーム
Neo:6（DTS Neo:6）	Cinema Music	映画 音楽

2ch→7ch

デコーダー		おすすめのソース
PLIIx（ドルビープロロジック IIx）	Movie Music Game	映画 音楽 ゲーム
Neo:6（DTS Neo:6）	Cinema Music	映画 音楽

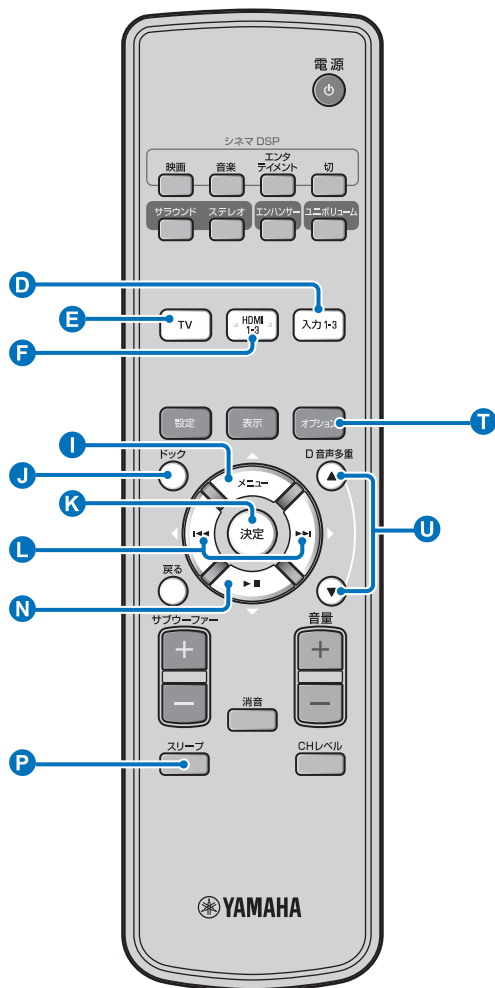
1)

5.1 チャンネルのソースを再生するときのサラウンドデコーダーについて

「Ch Out」（チャンネル出力）を「7.1ch」に設定した場合、5.1 チャンネルソースを最大 7.1 チャンネルで再生できます（☞27 ページ）。入力信号に応じて、以下のデコーダーが自動的に選択されます。

5.1ch 入力ソース	デコーダー
PCM、AAC、ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス	ドルビープロロジック IIx Movie ／ Music
DTS デジタル、DTS-ES matrix、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューション	DTS-ES matrix
DTS-ES discrete	DTS-ES discrete

2)

- デコーダーの切り替えは、サラウンド再生時にのみ有効です。
- 「Ch Out」（チャンネル出力）の設定（☞28 ページ）により、選択できるデコーダーは変化します。
- ステレオ再生の場合（☞25 ページ）やマイサラウンド機能を使用している場合（☞27、28 ページ）は無効です。

便利な機能を使う

二カ国語放送の音声の切り替え

BS ／地上デジタル放送の AAC やドルビーデジタルの音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。1)

U（▲）音声多重キーを繰り返し押す。

再生する音声の設定が切り替わります。2)

選択項目：Main*、Sub、Main＋Sub

Main：主音声を出力します。
Sub：副音声を出力します。
Main＋Sub：主音声と副音声の両方を出力します。

---

1)

この設定は DUAL インジケーターが点灯しているときに有効です。

2)

ソースに副音声が収録されていない場合、音声は切り替わりません。

スリープタイマー／オートパワーダウン機能

一定時間経過後に本機の電源を自動的にスタンバイにします。

Ⓟスリープキーを繰り返し押す。

スタンバイ状態になるまでの時間が切り替わります。フロントパネルディスプレイにSLEEPインジケーター（☞6 ページ）が点滅します。
SLEEPインジケーターが点灯に変わり、スリープタイマーが設定されます。3)

選択項目：Sleep 120 min.、Sleep 90 min.、Sleep 60 min.、Sleep 30 min.、AutoPowerDown、Off

オートパワーダウン機能 4)

AutoPowerDownに設定すると、選択している入力が電源オフ（またはスタンバイ状態）になってから10分後に自動的にスタンバイにします。電源の消し忘れを防止するのに便利な設定です。

入力ごとの設定（オプションメニュー）

入力（TV／HDMI1～3／入力1～3／ドック）ごとに設定します。入力により、設定できる項目は異なります。

1 入力選択キー（Ⓓ、Ⓔ、Ⓕ、Ⓙ）を押して、設定を変更する入力を選択する。

2 Ⓣオプションキーを押す。

オプションメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。

```
・Volume Trim
```

3 Ⓘ△／Ⓝ▽キーで項目を選択し、Ⓚ決定キーを押す。

4 Ⓛ◁／▷キーを押して、設定値を変更する。

5 Ⓣオプションキーを押して、オプションメニューを終了する。

オプションメニュー項目一覧

各入力には、以下のようなメニューアイテムがあります。

入力ソース	メニュー項目
HDMI1-3	Volume Trim、Decoder Mode、Sur.Dec.Mode、Signal Info
TV	
入力1-3 (INPUT1-3)	
ドック (DOCK)	Volume Trim、Sur.Dec.Mode、Connect、Disconnect、Pairing、Interlock 5)

オプションメニュー項目の内容は以下のとおりです。現在選択している入力に設定が反映されます。「＊」は初期設定を表しています。

各端子の入力レベル設定（Volume Trim）

端子ごとに入力レベルを設定して、入力機器毎の異なる音量のばらつきを調節します。

調整範囲：－6.0dB～0.0dB*～＋6.0dB

再生するデジタル音声信号の設定（Decoder Mode）

再生する音声信号を選択します。

選択項目：Auto*、DTS、AAC

Auto：本機が自動的に選択して再生します。通常はこのモードを選択してください。

DTS：DTS信号のみ再生します。

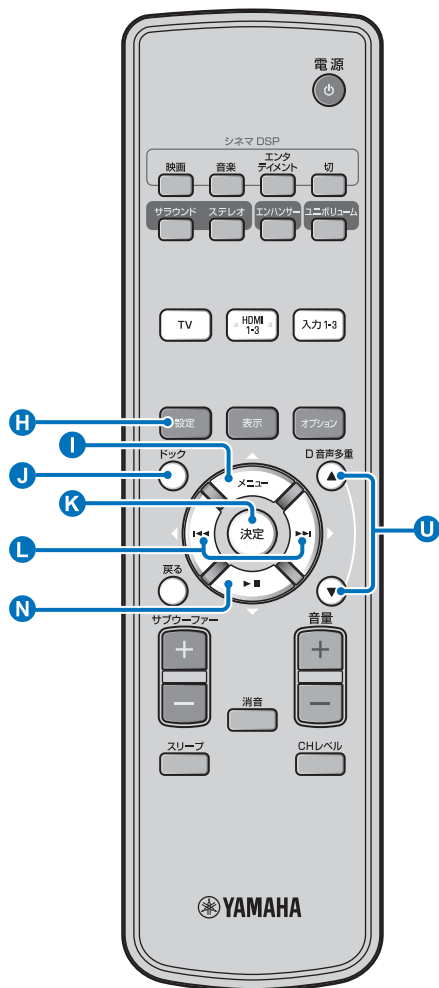
AAC：AAC信号のみ再生します。

サラウンドデコーダーの設定（Sur. Dec. Mode）

詳しくは、「サラウンドデコーダーの設定」（☞29 ページ）を参照してください。

3)
- 「Off」を選択するか、電源をスタンバイにすると、スリープタイマーは解除されます。
- AutoPowerDownに設定した場合、再生中にSLEEPインジケーターは点灯しません。

4)
- スタンバイになるまでの10分間に本機を操作した場合は、操作の10分後にスタンバイになります。
- 次の入力、条件ではAutoPowerDownを選択できません。
  －アナログ（入力3）、DOCK
  －HDMI 1-3（HDMIコントロール機能が有効のとき）

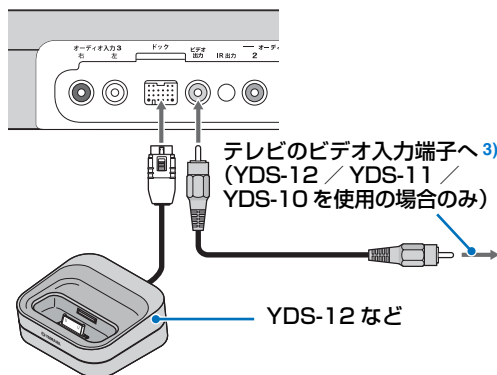
5)
Interlockについては「iPod／iPhoneの再生」（☞32 ページ）、Connect、Disconnect、Pairingについては「Bluetooth 対応機器の再生」（☞34 ページ）を参照してください。

入力信号に関する情報の表示 (Signal Info)

I △／N ▽キーで表示される情報を切り替えます。

Format	デジタル音声のフォーマット
Channel	入力信号に含まれているチャンネル数（フロント／サラウンド／LFE（低域効果音）） 表示例：「3／2／0.1」→ 入力信号にフロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE あり 1)
Sampling	デジタル入力信号のサンプリング周波数
Bitrate	入力信号の 1 秒あたりのビットレート
HDMI In	HDMI 映像信号の解像度
HDMI Message	HDMI に関するエラー表示（エラーが発生しているときのみ表示）

iPod ／ iPhone の再生

ヤマハ製iPod用ユニバーサルドック（別売YDS-12など）やiPod用ワイヤレスシステム（別売YID-W10）を本機に接続してiPod／iPhoneに保存された音楽を再生することができます。

1 ヤマハ製iPod用ユニバーサルドックまたは iPod/iPhone シリーズ専用ワイヤレスシステムをドック端子に接続し、iPod／iPhone をセットする。2)

雑音を避けるため本機からできるだけ離して設置してください。

1)
表示例の方法で表現できないチャンネルを含んでいる場合は、「5.1ｃｈ」のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。

2)
- 本機の電源がオフの状態のときに接続してください。
- YDS-12 や YID-W10 などの接続および設定について詳しくは、各取扱説明書をご覧ください。
- 本機からケーブルをはずす場合は、プラグ上部の突起部を押しながらはずしてください。

3)
iPod 用ユニバーサルドックを接続している場合、本機のビデオ出力端子とテレビ側のビデオ入力端子をビデオ用ピンケーブル（付属）で接続すると、iPod ／ iPhone のビデオ映像をテレビに映すことができます。その際、テレビは接続した入力に設定してください。

2 **Ⓙドックキーを押し、ドック入力を選択してから iPod ／ iPhone を再生する。**[4)]

ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック (YDS-12 など) を使用する場合 [5)]

ドックに iPod ／ iPhone を設置し、本機のリモコンを使って iPod ／ iPhone の再生操作をすることができます。iPod ／ iPhone のビデオ映像をテレビに映すこともできます。
ⒾⓀⓁⓃ : iPod のメニューを操作します
Ⓤ : iPod ホイールを操作します

ユニバーサルドック(YDS-12 ／ YDS-11 ／ YDS-10) に対応する iPod ／ iPhone

(2010年９月現在)
iPod touch、iPod mini、iPod(第４世代、第５世代)、iPod Classic、iPod nano 、iPhone 、iPhone 3G 、iPhone 3GS
ただし、YDS-11 ／ YDS-10 は iPhone シリーズに対応していません。

ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）を使用する場合 [6)]

ドック端子にレシーバーを接続し、iPod ／ iPhone にワイヤレストランスミッターを接続することで、iPod ／ iPhone をリモコンのように使いながら再生することができます。

ワイヤレスシステムに対応する iPod ／ iPhone

(2010年９月現在)
iPod touch、iPod(第５世代)、iPod Classic、iPod nano、iPhone、iPhone 3G、iPhone3GS

本機と iPod ／ iPhone の連動 [7)]

YID-W10 を使用する場合、オプションメニュー（☞31 ページ）の「Interlock」を「On」に設定すると、お使いの iPod ／ iPhone で以下のような機能を使用することができます。

- iPod ／ iPhone で再生を開始すると、本機の電源がオンになり、入力が DOCK（iPod）になります。
- iPod ／ iPhone をトランスミッターから取り外すか、再生を停止したあとしばらくすると本機は自動的にスタンバイになります。

---

4) **ご注意**

- iPod ／ iPhone の種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。
- iPod ／ iPhone 接続時にフロントパネルディスプレイに表示されるメッセージについては、「困ったときは」の「iPod ／ iPhone」（☞ 48 ページ）を参照してください。
- あらかじめボリュームを最小にしてから、iPod ／ iPhone の着脱を行ってください。

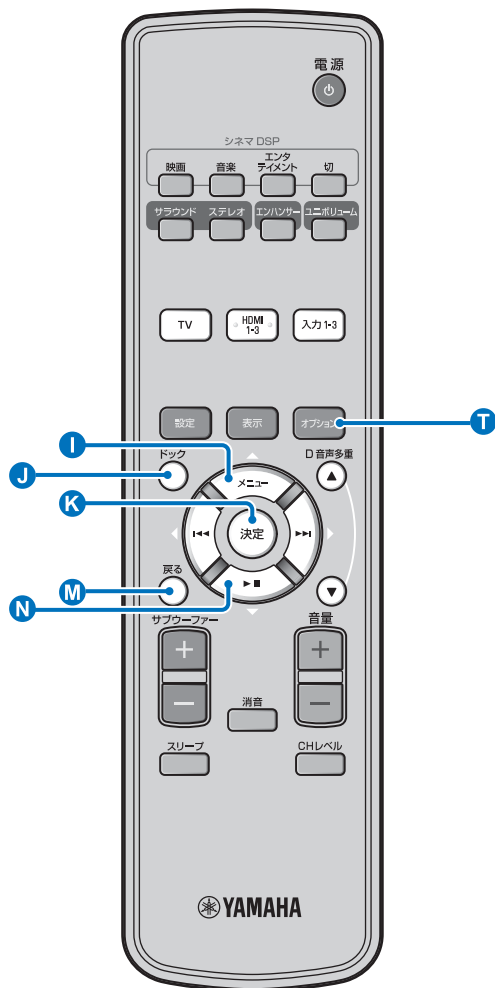
5)

本機がスタンバイ状態の場合でも、ドック端子に接続したヤマハ製ドックに設置されている iPod ／ iPhone を充電できます。フロントパネルディスプレイには「Charging」と表示されます。

6)

- YID-W10 を使用して、「Interlock」を「On」にしている場合は、本機がスタンバイでも充電できます。
- iPod ／ iPhone の最大音量よりもさらに大きな音量で再生する場合は、本機のリモコンで音量を上げてください。

7)

この機能はアプリケーションの音声や着信音でも機能します。iPhone をサイレントモードに設定すれば、着信音などで本機の電源と連動しません。

Bluetooth 対応機器の再生

Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを接続して、Bluetooth 機器（携帯オーディオプレーヤー、Bluetooth 搭載のコンピューターなど）に保存された音楽を再生できます。

ペアリング

「ペアリング」とは

通信を行う機器を本機に登録する操作です。初めてBluetooth 接続を使うときや、登録されていたペアリング情報が削除されたときは、この操作が必要です。
セキュリティ確保のため、ペアリング操作には８分間の制限時間が設けられています。一度すべての手順を読んでから実際の操作を行うことをおすすめします。

1 「iPod ／ iPhone の再生」の手順１（☞32 ページ）と同様に Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）をドック 端子に接続する。1)

2 リモコンの J ドックキーを押し、ドック入力に切り替える。

3 ペアリングしたい Bluetooth 機器の電源をオンにし、Bluetooth 機器をペアリング状態にする。2)

1) 詳しくは YBA-10 付属の取扱説明書をご覧ください。

2) 詳しくは、お使いの Bluetooth 機器の説明書をご覧ください。

4 Ⓣオプションキーを押す。

ドック入力のオプションメニューが表示されます。

5 Ⓘ△／Ⓝ▽キーを押して「Pairing」を選び、Ⓚ決定キーを押す。3)

Bluetooth接続が開始されると、フロントパネルディスプレイに「Searching...」と表示されます。

6 Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器がBluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識している場合は、Bluetooth 機器のデバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

7 Bluetooth 機器のデバイスリストから Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

接続 4)

1 リモコンのⒿドックキーを押し、ドック入力に切り替える。

2 Ⓣオプションキーを押す。

3 「Connect」を選び、Ⓚ決定キーを押す。5)

4 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーとBluetooth機器の接続を解除するにはもう一度Ⓣオプションキーを押して、オプションメニューを表示させ、「Disconnect」を選択してⓀ決定キーを押す。

3)

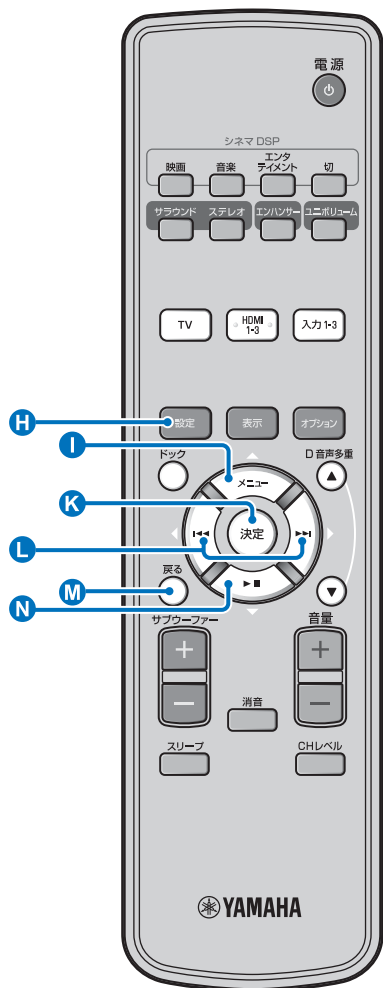
ペアリングをキャンセルするときは、リモコンのⓂ戻るキーを押します。

4)

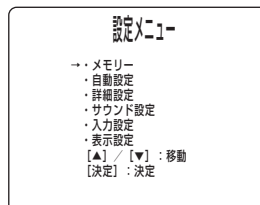
本機からの接続操作は、前回接続した Bluetooth 機器のみが接続対象となります。

5)

- 表示については、「困ったときは」の「Bluetooth」（☞49 ページ）を参照してください。
- 前回接続された Bluetooth 機器以外と接続したい場合は、その Bluetooth 機器側から接続操作を行ってください。詳しくは、お使いの Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください。

設定メニュー

操作手順

以下の操作の前に、本機とテレビをビデオ用ピンケーブル（付属）で接続していることを確認して、テレビの入力を「ビデオ入力 1」（例）に切り替えてください。

1 **Ⓗ設定キーを押してメニューに入る。** 1)

2 **Ⓘ△ ／Ⓝ▽ キーを押してメニューを選択し、Ⓚ決定キーを押す。**

設定したいメニューが表示されるまで、この手順を繰り返してください。

3 **Ⓛ◁ ／ ▷ キーを押して、各メニューの設定値を調節する。** 2)

4 **Ⓗ設定キーを押して、設定メニューを解除する。**

Ⓜ戻るキーを押すと、ひとつ手前のメニュー表示に戻ります。

---

1) **ご注意**

長押しすると、言語選択の画面になります（☞44 ページ）。

2)

設定値の「*」は初期設定を表しています。

設定メニューリスト

カテゴリー	メニュー	サブメニュー	内容	ページ
メモリー	メモリー呼び出し	メモリー 1、メモリー 2、メモリー 3	設定内容を呼び出す。	☞21 ページ
	メモリー保存	メモリー 1、メモリー 2、メモリー 3	設定内容を保存する。	☞21 ページ
自動設定	ビーム調整＋音質調整	自動設定（確認・準備）	ビームと音質を自動的に設定する。	☞19 ページ
	ビーム調整		ビームを自動的に設定する。	☞19 ページ
	音質調整		音質を自動的に設定する。	☞19 ページ
詳細設定	設置視聴環境	本体設置位置、リスニングルームの長さ、リスニングルームの幅、距離	設置状態やリスニング環境を設定する。	☞38 ページ
	ビーム調整	水平角度、ビーム経路長、焦点距離（フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右）	ビームの向きと距離を設定する。	☞39 ページ
	Lch ／ Rch 位置調整	左、右	左右の音のバランスを調節する。	☞40 ページ
サウンド設定	トーンコントロール	高音、低音	高音域と低音域の出力レベルを調節する。	☞40 ページ
	サブウーファー	LFE レベル、距離	サブウーファーに関する設定をする。	☞40 ページ
	映像と音声のタイミング調整	AUTO LIP SYNC	音声出力のタイミングが映像と一致するよう調節する。	☞40 ページ
		TV、HDMI1-3、INPUT1、INPUT2、INPUT3	音声信号の出力タイミングを手動で設定する	
	ダイナミックレンジコントロール	Adaptive DRC、Dolby/DTS DRC	ダイナミックレンジの設定をします。	☞41 ページ
	チャンネルレベル	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー	各チャンネルの音量を調節します。	☞41 ページ
	サウンド出力	チャンネル出力	ビームの出力方法を切り替えます。	☞41 ページ
		サラウンド	サラウンド音声出力を切り替えます。	☞41 ページ
入力設定	入力端子設定	オプティカル 1、オプティカル 2、コアキシャル、アナログ	音声入力端子の設定を変更します。	☞42 ページ
		音声選択（HDMI1、HDMI2、HDMI3）	HDMI 端子の音声出力を設定する	
	入力端子名変更	TV、INPUT1、INPUT2、INPUT3、HDMI1、HDMI2、HDMI3	入力の表示名称を変更します。	☞43 ページ
	HDMI 設定	HDMI コントロール、サポート音声	HDMI に関する設定をします。	☞43 ページ
表示設定	本体表示設定	操作時の明るさ、非操作時の明るさ	フロントパネルディスプレイ表示を設定します。	☞44 ページ
	メニュー画面設定	上下位置、背景色	メニュー画面に関する設定をします。	☞44 ページ
	LANGUAGE SETUP	JAPANESE、ENGLISH	メニュー画面の表示言語を設定します。	☞44 ページ

設置環境やビームの設定

自動設定（☞17 ページ）の内容を手動で調節します。自動設定の値を生かしながらビームを微調節するには、「ビーム調整」、および「Lch ／ Rch 位置調整」で設定を変更してください。

リスニング環境の設定

詳細設定→設置視聴環境

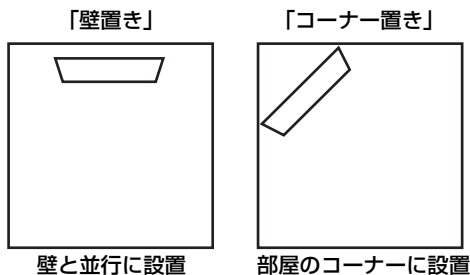
本機の設置状態や視聴位置を設定します。[1][2]

1 設置視聴環境 1 ／ 3 の「本体設置位置」を設定する。

本機の設置場所を設定します。[3]

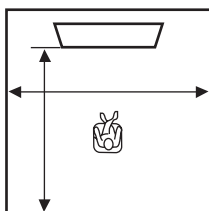
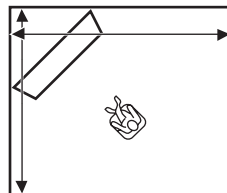
選択項目：壁置き *、コーナー置き

壁と並行に設置

部屋のコーナーに設置

2 設置視聴環境 2 ／ 3 を設定する。

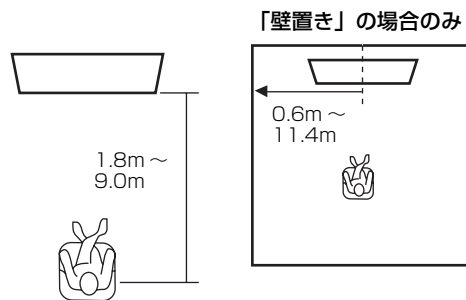
部屋の長さと幅を設定します。

調整範囲：2.0m ～ 12.0m

「本体設置位置」を「壁置き」に設定した場合は、部屋の幅と本機から後方までの長さを設定します。

「コーナー置き」に設定した場合は、視聴位置左側前方の壁の長さと、右側前方の壁の長さを設定します。

3 設置視聴環境 3 ／ 3 を設定する。

本機前面から視聴位置までの距離や、本機の中心から左側の壁までの距離を設定します。

本機から視聴位置までの可変範囲：
1.8m ～ 9.0m
本機から左側の壁までの可変範囲：
0.6m ～ 11.4m

---

1)

本設定を変更すると、「ビーム調整」も自動的に適切な値へ変更されます。

2)

本設定を変更すると、自動設定のビームデータは失われます。

3)

設定を変更すると、「サラウンドモード」の設定も自動的に変更されます（☞27 ページ）。

ビームの向きと距離の設定

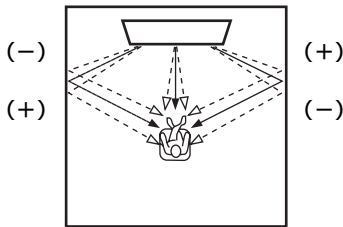
詳細設定→ビーム調整

ビームの向きと距離を設定します。4)

1 「水平角度」を設定する。

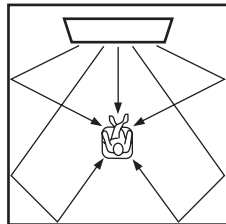
テスト音を聴きながら、ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。

左方向に調節すると音声出力は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。

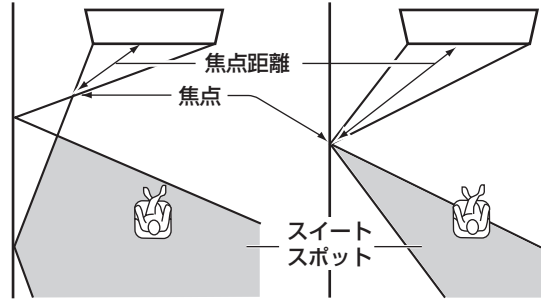
調整範囲：L90°～R90°（左90度～右90度）

2 「ビーム経路長」を設定する。5)

各チャンネルのビームが、出力されてから壁にはね返って視聴位置に到達するまでの距離を設定します。この設定により、音の遅延量が補正され、各チャンネルの音が同じタイミングで視聴位置に届くようになります。

調整範囲：0.3m～24.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。

3 「焦点距離」を設定する。6)

音がよく聞こえる範囲（スイートスポット）の広さを調節します。

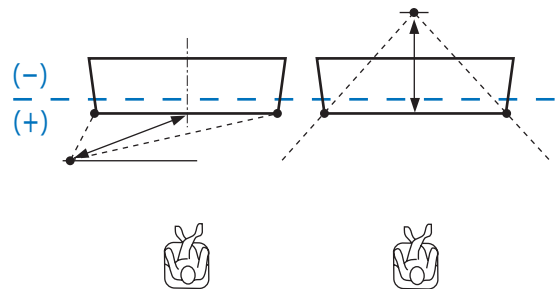
下図のように音が一旦焦点を結び、その地点からまた広がるよう設定されています。数値を小さく（－（マイナス）方向に）設定するほどスイートスポットは広くなり、数値を大きく（＋（プラス）方向に）設定するほどスイートスポットは狭くなります。

センターチャンネルについては、初期設定（－0.5m）での使用をおすすめします。

サブメニュー表示：フロント左、フロント右、サラウンド左、サラウンド右

調整範囲：－1.0m～＋13.0m

サブメニュー表示：センター

調整範囲：－1.0m～－0.5m*～＋13.0m

例　フロント左チャンネル　センターチャンネル

4)

- 自動設定（☞17 ページ）または「設置視聴環境」の設定により、各項目は自動的に設定されています（「焦点距離」の「センター」は除く）。
- 「サラウンドモード」（☞27 ページ）の設定により、設定できないチャンネルは「－－」と表示されます。

5) **ご注意**

「ビーム経路長」は「水平角度」を調節した場合にのみ設定してください。

6)

自動設定（☞17 ページ）および「設置視聴環境」（☞38 ページ）の設定では、スイートスポットが本機の幅より少し広くなるよう自動的に調節されます。

準備
接続・初期設定
再生
設定
困ったときは
付録
安全上のご注意

フロント左／右チャンネルの位置調整 1)

詳細設定→Lch ／ Rch 位置調整

フロント左／右チャンネルの音声が聞こえてくる方向が、センターに近い位置になるように調節します。左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合に調節してください。

「サラウンドモード」(☞27 ページ)を「5 ビームプラス 2」または「5 ビーム」、「3 ビーム」に設定しているときに調節できます。

「オン」を選択すると、音の方向を調節できます。

選択項目：オフ *、オン

1 「左」を設定する。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

調整範囲：0%* ～ 95%

調節しないとき

フロント左チャンネルを調節したときのイメージ

2 「右」を設定する。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

調整範囲：0%* ～ 95%

調節しないとき

音声の設定

音色の調整

サウンド設定→トーンコントロール

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

サブメニュー表示：高音、低音

調整範囲：－ 10.0dB ～ 0.0dB* ～＋ 10.0dB

サブウーファーの設定

サウンド設定→サブウーファー

サブメニュー表示：LFE レベル

ドルビーデジタル、DTS、および AAC 信号に含まれている LFE（低域効果音）の音量を調節します。2)

調整範囲：－ 20.0dB ～ 0.0dB*

サブメニュー表示：距離

サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。

調整範囲：0.3m ～ 2.5m* ～ 15.0m

映像と音声のタイミング調整

サウンド設定→：映像と音声のタイミング調整

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて表示されることがあります。このタイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

サブメニュー表示：AUTO LIP SYNC

出力タイミングの補正方法を設定します。

選択項目：オン *、オフ

「オン」： 出力タイミングが自動的に調節されます。HDMI で接続されたテレビがリップシンクの自動補正機能に対応しているときのみ有効です。

「オフ」： テレビが自動補正機能に対応していない場合や自動補正機能を使わない場合に選択します。

次の項目で遅延時間を入力ごとに手動で調節できます。

1) 各チャンネルの音量レベルは、「チャンネルレベル」(☞41 ページ）で調節できます。

2) LFE とは？
デジタル音声に含まれる低域の効果音です。ドルビーデジタル、DTS などのデジタル信号では専用のチャンネルが用意されています。

サブメニュー表示：TV

テレビ端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。

調整範囲：0ms*～300ms

サブメニュー表示：HDMI1-3

HDMI入力端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。「AUTO LIPSYNC」が「オフ」のときに有効になります。

調整範囲：0ms～30ms*～300ms

サブメニュー表示：INPUT1／INPUT2／INPUT3

INPUT1／INPUT2／INPUT3端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。

調整範囲：0ms～30ms*～300ms

ダイナミックレンジ圧縮の設定

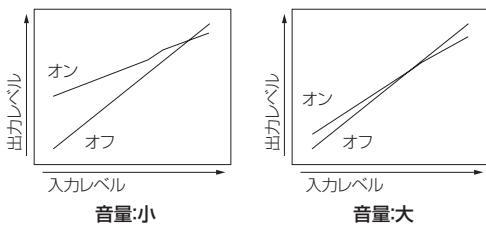
サウンド設定→ダイナミックレンジコントロール

音量を下げて再生したり、夜間に再生したりするときのダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を設定します。

サブメニュー表示：Adaptive DRC [3)]

本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節します。「オン」に設定すると、ダイナミックレンジは次のように調節されます。
音量を小さくしたとき：
ダイナミックレンジが狭くなります。大きな音は音量を小さめに、聞き取りにくい小さな音は大きめに再生します。
音量を大きくしたとき：
ダイナミックレンジが広くなります。小さな音から大きな音まで、ソースの持つ音量のまま再生します。

音量:小

音量:大

選択項目：オン*、オフ

「オン」：ダイナミックレンジを自動調節します。[4)]
「オフ」：ダイナミックレンジを自動調節しません。

サブメニュー表示：Dolby/DTS DRC

ドルビーデジタル、およびDTS再生時のダイナミックレンジを設定します。

選択項目：最大*、標準、最小/自動

最大：入力された信号を補正せず、そのまま再生します。[5)]

標準：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

最小/自動：
（最小）Dolby TrueHD信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。
（自動）Dolby TrueHD信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。

各チャンネルの音量バランスの設定

サウンド設定→チャンネルレベル

チャンネルごとに出力されるテスト音を聴きながら、チャンネル間の音量バランスを調節します。[6)]

サブメニュー表示：

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

調整範囲：－10.0dB～＋10.0dB

サウンド出力設定

サラウンド音声の設定

サウンド設定→サウンド出力

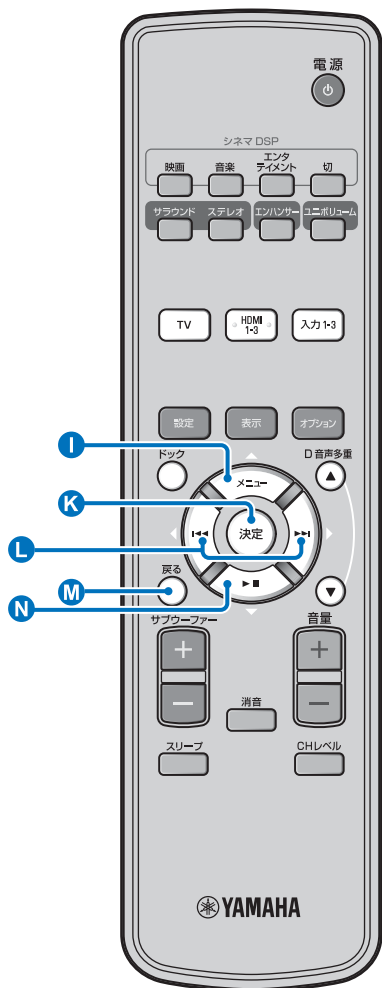
サブメニュー表示：チャンネル出力、サラウンド

音声出力チャンネル数（5.1ch／7.1ch／自動）やサラウンド出力方法を切り替えます。詳しくは「サラウンドの音声出力方法を切り替える」(☞27ページ）を参照してください。

3)
- 「オン」に設定すると、「Dolby/DTS DRC」が自動的に「最大」に設定されます。
- ユニボリュームをオンにすると、本設定は無効になります。

4)
夜間などに小音量で聴く際にも聴きやすくなります。

5)
「最大」以外に設定すると、「Adaptive DRC」が自動的に「オフ」に設定されます。

6)
「サウンド出力」の「サラウンド」を「マイサラウンド」に設定した場合は、以下の項目を設定することができます。
サブメニュー表示：センター、サラウンド左右、サブウーファー

入力に関する設定

音声入力端子の割り当て設定

入力設定→入力端子設定 1)

音声入力端子の割り当てを変更します。各端子に設定した割り当てに従って、入力選択時の音声が決定されます。2)

サブメニュー表示 オーディオ入力端子	初期設定
オプティカル 1 オーディオ入力（デジタル）テレビ［光］	TV
オプティカル 2 オーディオ入力（デジタル）1［光］	INPUT1
コアキシャル オーディオ入力（デジタル）2［同軸］	INPUT2
アナログ オーディオ入力 3［アナログ］	INPUT3

選択項目：TV、INPUT1、INPUT2、INPUT3、HDMI1、HDMI2、HDMI3

音声選択（HDMI 入力の音声選択）

HDMI 入力端子からの入力された映像と、デジタル入力端子またはオーディオ入力端子からの音声を再生したいときにHDMI 音声信号をオフに切り替えます。3)

サブメニュー表示：HDMI1、HDMI2、HDMI3

選択項目：オフ、オン＊

1)

HDMI 入力を選択した場合は、入力端子設定の音声選択で対応する HDMI 入力の設定を「オフ」にしてください。

2)

他のデジタル音声入力端子ですでに選択されている選択項目は表示されません。

3)

使用例：PC と本機を接続する場合

1 PC の DVI 出力端子と本機の HDMI 入力 3 を DVI → HDMI 変換ケーブルを使って接続する。
2 PC の音声出力端子と本機のオーディオ入力 3 端子（アナログ）を接続する。
3 「入力端子設定」で「アナログ」を「HDMI3」に設定する。
4 「音声選択（入力端子設定）」で「HDMI3」を「オフ」に設定する。

入力名表示の設定

入力設定→入力端子名変更

フロントパネルディスプレイに表示される入力を変更します。選択項目から選ぶか、任意の名称を入力してください。

選択項目から選ぶ場合

1 Ⓘ△ ／Ⓝ▽ を押して、表示を変更する入力を選択する。

2 Ⓛ◁／▷キーを押して、表示を選択する。

選択項目：Blu-ray、DVD、DVR、CATV、Satellite、Game

3 設定を終了するには、Ⓜ戻るキーを押す。

お好みの名称を入力する場合

1 Ⓘ△ ／Ⓝ▽ を押して、名称を変更する入力を選択する。

2 Ⓚ決定キーを押す。

変更後の名称表示の上に、文字位置を示す「▼」が表示されます。

3 Ⓛ◁／▷キーを押して、変更する文字位置を選択する。

4 Ⓘ△／Ⓝ▽を押して、文字を選択する。[4)]

5 手順３～４を繰り返す。

6 入力が終わったらⓀ決定キーを押す。

7 設定を終了するには、Ⓜ戻るキーを押す。

HDMI に関する設定

入力設定→HDMI 設定

HDMI 信号やHDMI コントロール機能に関する設定をします。

HDMI コントロール

サブメニュー表示：HDMI コントロール

HDMI コントロール機能（☞22 ページ）のオン／オフを切り替えます。

選択項目：オフ、オン *

「オフ」：コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。
「オン」：コントロール機能を有効にします。

音声を再生する機器

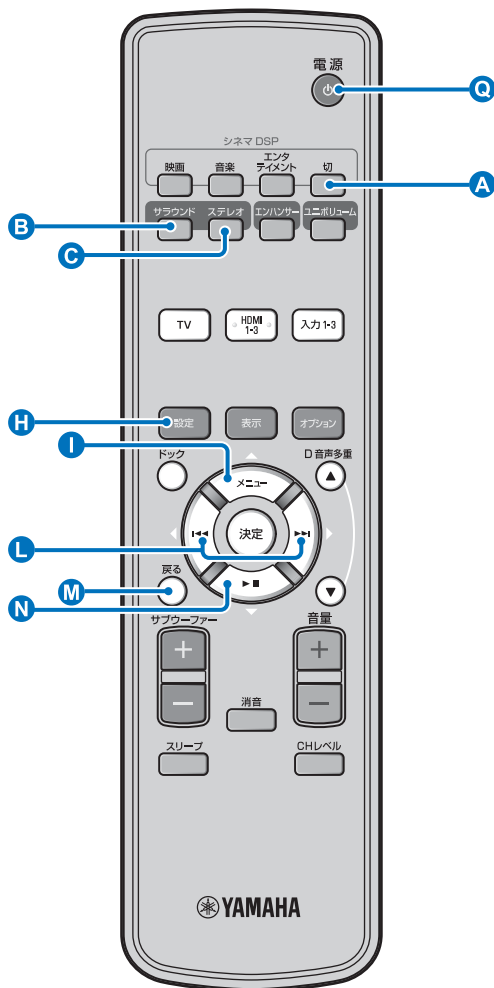
サブメニュー表示：サポート音声

HDMI 入力音声信号を再生する機器を設定します。「HDMI コントロール」が「オフ」のときに機能が有効になります。[5)]

選択項目：YSP-2200*、それ以外

「YSP-2200」：入力された音声信号を本機で再生します。
「それ以外」：HDMI 出力（ARC）端子に接続した機器で再生します。

4) 表示できる文字は、A ～ Z、0 ～ 9、a ～ z、記号（！、？、<、>など）です。

5) 本機の HDMI 入力端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI 出力（ARC）端子へ出力されます。

表示の設定

フロントパネル表示の設定

表示設定→本体表示設定

フロントパネルディスプレイに関する設定を変更します。

サブメニュー表示：操作時の明るさ

本体／リモコンキー操作時のフロントパネルディスプレイの明るさを調整します。数値が小さくなるほど暗くなります。

選択項目：－２、－１、オフ＊（最も明るい）

サブメニュー表示：非操作時の明るさ

「操作時の明るさ」の設定値を基準として、通常時（本体／リモコンキー非操作時）のフロントパネルディスプレイの明るさを調節します。数値が小さくなるほど暗くなります。

選択項目：非表示、－３、－２、－１、オフ＊（最も明るい）

メニュー画面の設定

表示設定→メニュー画面設定

本機のメニュー画面に関する設定を変更します。

サブメニュー表示：上下位置

メニューを表示する位置を調節します。－（マイナス）方向にすると表示位置が上に移動し、＋（プラス）方向にすると下に移動します。

選択項目：－５～±０＊～＋５

サブメニュー表示：背景色

壁紙の色を設定します。

選択項目：ブルー＊、グレー、ブラック、パープル、レッド

メニュー表示言語の設定 1)

表示設定→LANGUAGE SETUP

メニュー画面の表示言語を設定します。

選択項目：JAPANESE＊、ENGLISH

「JAPANESE」：日本語で表示します。
「ENGLISH」：英語で表示します。

---

1)

- H 設定キーを長押しすると、このメニューを直接表示することができます。
- HDMI コントロール対応のテレビを使用する場合、設定が自動的に変更されることがあります。

拡張メニュー

1 Ⓠ電源（⏻）キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

2 本体の INPUT キーを押しながら、リモコンのⓆ電源（⏻）キーを押して電源をオンにする。

フロントパネルディスプレイに「ADVANCED SETUP」と表示されます。

3 本体の INPUT キーをはなす。

4 Ⓘ△／Ⓝ▽キーで、設定したいメニューをフロントパネルディスプレイに表示させ、Ⓚ決定キーを押す。1)

5 Ⓛ◁ ／ ▷ キーを押して、設定を変更する。2)

6 Ⓠ電源（⏻）キーを押して、電源をスタンバイにする。

再度Ⓠ電源（⏻）キーを押して電源を入れると、設定されます。

設定項目	内容	選択項目／調整範囲
TURN ON VOLUME	起動時の音量	OFF*（設定しない）、01 ～ 99、MAX（最大）
MAX VOLUME SET	音量最大値の制限	01 ～ 99、MAX*（最大）
PANEL INP. KEY	本体 INPUT キーの有効／無効	P.INPUT:ON*（有効） P.INPUT:OFF（無効）
F.PANEL KEY	本体操作キーの有効／無効	F.PANEL:ON*（有効） F.PANEL:OFF（無効）
R.INPUT POWER	スタンバイ状態からリモコンの入力選択キーで起動する	R.INPUT PW:OFF*（起動しない） R.INPUT PW:ON（起動する）
AC ON STANDBY	本機への電源供給が回復したときの状態	AC STANDBY:OFF*（電源遮断前の状態） AC STANDBY:ON（スタンバイ状態）
MEMORY PROTECT	「メモリー保存」（☞21 ページ）を保護	PROTECT:OFF*（保護しない） PROTECT:ON（保護する）
DEMO MODE	ビーム化された音声のデモ機能 3)	BEAM DEMO:OFF*（通常の再生） BEAM DEMO:ON（デモモード）
FACTORY PRESET	設定の初期化	PRST:CANCEL*（初期化しない） PRST:RESET（初期化する）

1)
ひとつ前の表示に戻りたい場合は、Ⓜ戻るキーを押してください。

2)
設定値の「*」は初期設定を表しています。

3)
１チャンネルにダウンミックスした音声をビーム化し、左右に水平移動させながら出力します。これにより、本機からビームがどのように出力されているか体感できます。
デモ状態の場合はフロントパネルディスプレイに「Demo」と表示されます。

水平移動の開始・停止

Ⓐ切キーを押す。

Auto Demo On：ビームが自動的に左右に水平移動

Auto Demo Off：ビームの方向を固定

ビーム角度の手動調整

「Auto Demo Off」の状態でⒷサラウンドキー／Ⓒステレオキーを押す。

困ったときは

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
電源（⏻）キーを押しても電源が入らない／すぐに電源が切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	14
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	スピーカーケーブルが本機とサブウーファーに正しく接続されているか確認してください。	13
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待ち（約 1 時間程度）、本機の周囲に十分なスペースがあること、本機を布などで覆っていないことを確認して電源を入れなおしてください。	9
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生し直してください。	31
	YID-W10 を使用中、「Interlock」が「On」に設定されている状態で、無線が切断されてしばらく経過したために電源が切れた。	無線接続を再開するか、iPod ／ iPhone の音声を検知させて、本機の電源をオンにする。	—
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	14、15
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUT キーや入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	24
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	24
	消音されている。	消音キーまたは音量＋／−キーを押して消音を解除してください。	24
	本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	—
	「サポート音声」を「それ以外」に設定している。	「YSP-2200」に設定してください。	43
	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、「HDMI コントロール」を「オン」に設定してください。	43
		本機の光デジタル入力（テレビ）端子とテレビの音声出力端子を光ファイバーケーブルで接続してください。	15
有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—
特定のチャンネル音声が出ない／はっきり聞こえない	該当チャンネルの音量が絞られている。	該当チャンネルの音量を調節してください。	25、41
	ビームが正しく設定されていない。	ビームを調節してください。	27
	ステレオ再生している。	サラウンド再生してください。	26
	音声出力方法により、出力されないチャンネルがあります。	音声出力方法を変更してください。	27

症状	原因	対策	参照ページ
十分なサラウンド効果が得られない	本機と再生機器やテレビをデジタル接続している場合に、再生機器やテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	部屋が特殊な形状をしている、または本機の設置場所や視聴位置が部屋の左右の壁の中央からずれている。	本機の設置場所や視聴位置を変更してください。	11、38
	ビーム経路上に壁がない。	ビーム経路上に反射板を設置してください。	—
	マイサラウンドモードを選択し、本体中央正面以外の場所で視聴している。	本体中央正面で視聴してください。	28
サブウーファーから音声が出ない	サブウーファーが正しく接続されていない。	サブウーファーの接続を確認してください。	13
	サブウーファーのレベルが低い。	サブウーファー+キーを押してレベルを上げてください。	24
テレビ画面に映像が表示されない	HDMI ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	14、15
本機のメニュー画面が表示されない	本機のビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子が接続されていない。	付属のビデオ接続ケーブルで接続してください。	14
	テレビの入力切り替えが正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	—
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—
設定した内容が変わってしまう	「HDMI コントロール」が「オン」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される。	「HDMI コントロール」を「オフ」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	43
HDMI コントロール機能が正常に動作しない	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	「オン」に設定してください。	43
	テレビのコントロール機能設定が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
	規格の制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
「AUTO LIP SYNC」を「オン」に設定しても効果が感じられない	テレビがリップシンクの自動補正機能に対応していない。	「AUTO LIP SYNC」を「オフ」に設定し、遅延時間を手動で設定してください。	40
キー操作時に「Not Available」と表示される	操作したキーは現在の状態では機能しません。		

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30°以内の範囲で操作してください。	13
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新品に交換してください。	13

iPod ／ iPhone

ご注意

ディスプレイに表示される下記のメッセージ以外で不具合がおこった場合は、お使いの iPod ／ iPhone の接続を確認してください。

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Connect error	iPod ／ iPhone との通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックを接続し直してください。	32
		iPod ／ iPhone をヤマハ製 iPod ユニバーサルドックにセットし直してください。	32
Low Battery	iPod ／ iPhone のバッテリーが残りわずかです。		
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod ／ iPhone が接続されています。	本機に対応した iPod を接続してください。	33
Connected	iPod ／ iPhone がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックに正しく接続されました。		
	iPod ／ iPhone がヤマハ製ワイヤレストランスミッターに正しくセットされ、本機と無線接続しました。		
Disconnected	iPod ／ iPhone がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックから取りはずされました。		
	本機と iPod ／ iPhone の無線接続が切断されました。		
Unable to play	何らかの原因で iPod ／ iPhone を再生できません。	iPod ／ iPhone に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	—
Charging	iPod ／ iPhone を充電しています。		

Bluetooth

ご注意

ディスプレイに表示される下記のメッセージ以外で不具合がおこった場合は、お使いの Bluetooth 機器を確認してください。

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器がペアリングしています。		
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングがキャンセルされました。		
Not available	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器が接続されているときにペアリングしています。		
Connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器の接続が確立しました。		
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器の接続が切断されました。		
Not found	ペアリングや接続しているときに、Bluetooth 機器が見つかりませんでした。	（ペアリング時） - ペアリングは、本機と Bluetooth 機器で同時にする必要があります。Bluetooth 機器側もペアリングモードになっているか確認してください。 （接続時） - Bluetooth 機器の電源がオンになっているか確認してください。 - ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の距離が 10 メートル以上離れていないか確認してください。	—
		- Bluetooth 機器と本機がペアリングされていない可能性があります。再度ペアリングしてください。	34

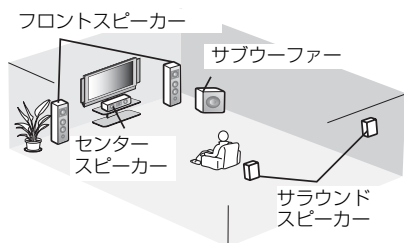
本機をリセットする

本機の操作ができなくなったときなどに、リセットすることで問題が解決する場合があります。
本機をリセットするには、本体の電源キーを 10 秒以上押し続けてください。

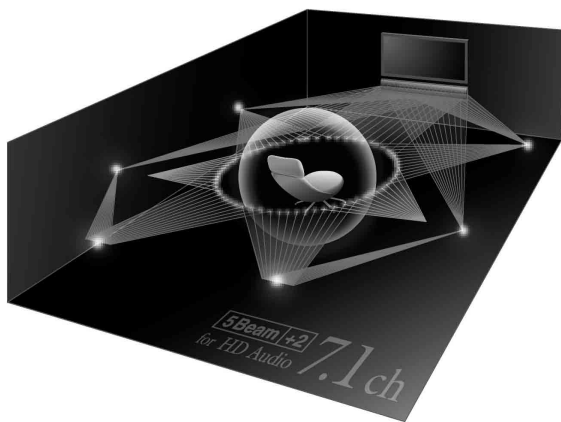
技術／用語解説

デジタルサウンドプロジェクター

通常、5.1 チャンネルのサラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカー（2 本）、センタースピーカー（1 本）、サラウンドスピーカー（2 本）、サブウーファー（1 本）が必要です。

標準的な 5.1 チャンネルスピーカーシステム

7.1 チャンネルサラウンド再生

本機は音声をビーム化し壁面に反射させることでリアルサラウンドを実現しています。

本機のサウンドイメージ

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

チャンネル（ch）

音域の範囲や他の性質の違いによって分類されたオーディオの種類です。
例：7.1 チャンネル

- フロントスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- センタースピーカー（1ch）
- サラウンドスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- サラウンドバックスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- サブウーファー（1ch × 0.1* ＝ 0.1ch）

* さらに超低音を出すためのチャンネルです。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント 3 チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド 2 チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。サラウンド 2 チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の 5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、最大 7.1ch のディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps で収録可能です。

ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックIIの上位規格で、ステレオ信号やマルチチャンネル信号を7.1chで再生するための技術です。ドルビープロロジックIIの5.1chに対し、サラウンドバックの2chが追加されています。再生するソースに合わせて、映画用のMovieモード（2ch信号入力時のみ）と音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードの3つが用意されています。

ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz／24bit時には最大8chのディスクリート音声信号を、最大転送レート18Mbpsで収録可能です。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2／MPEG-4 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS ／地上デジタル放送で採用されています。最大で5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

Deep Color

本機のHDMI端子が伝送可能な映像信号です。RGBまたはYCBCR 信号の処理を、従来の8 ビットに対して10／12／16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

DTS

DTS社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット（音声圧縮技術）で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1chサウンドが再生できます。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz／24bitで最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

DTS-HD マスターオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz／24bitで最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化（コード化）します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

x.v.Color

本機のHDMI端子が伝送可能な映像信号です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCG で高い効果が得られます。

主な仕様

アンプ部

- 定格出力
  ウーファー（100Hz、0.9% THD、3Ω）.......................... 70W
  ツイーター (1kHz、0.9% THD、4Ω)..................... 1.7W ／ ch
- 実用最大出力
  ウーファー（100Hz、10% THD、3Ω）........................ 100W
  ツイーター (1kHz、10% THD、4Ω).......................... 2W ／ ch

スピーカー部

- スピーカー形式
  YSP-CU2200 .... 密閉／防磁型
  NS-SWP600 .... バスレフ／非防磁型
- ユニット
  YSP-CU2200 .... 2.8cm コーン× 16
  NS-SWP600 .... 10cm コーン× 2
- インピーダンス
  YSP-CU2200 .... 4Ω
  NS-SWP600 .... 3Ω
- 再生周波数帯域（－10dB、ステレオモード）
  .... 40Hz ～ 20kHz
- クロスオーバー周波数 500Hz

入力端子

- オーディオ入力
  光デジタル.. 2 個（テレビ、入力 1）
  同軸デジタル.. 1 個（入力 2）
  アナログ .... 1 組（入力 3）
- HDMI 入力 .... 3 個（HDMI 入力 1-3）
- ドック入力.. 1 個（ドック）

出力端子

- HDMI 出力 .... 1 個
- ビデオ出力（コンポジット映像、1.0 Vp-p）............................ 1 個
- サブウーファースピーカー出力 .... 1 組

マイク入力端子

- INTELLIBEAM.. 1 個

リモート出力端子

- IR 出力... 1 個

総合

- 電源電圧... AC100V、50 ／ 60Hz
- 消費電力... 55W
- 待機消費電力
  （HDMI コントロール　オン時）.................................... 4.0W 未満
  （HDMI コントロール　オフ時）.................................... 0.3W 未満
- 寸法（幅×高さ×奥行き）
  YSP-CU2200（脚部高さが最低のとき）
  .... 944 × 79 × 145mm
  NS-SWP600（スタンド取り付け時）
  横置き.. 435 × 137 × 350mm
  縦置き.. 141 × 430 × 350mm
- 質量
  YSP-CU2200 .... 4.3kg
  NS-SWP600 .... 6.0kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

IntelliBeam

「インテリビーム」「IntelliBeam」は、ヤマハ株式会社の商標です。

CINEMA DSP

「シネマ DSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

世界に広く特許申請中の Cambridge Mechatronics Ltd からライセンスを受けています。

'①' は Cambridge Mechatronics Ltd の商標です。

DOLBY TRUE HD

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」「Surround EX」およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許番号：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 及び、その他米国や世界各国に出願し権利を保有する特許に基づき製造されています。DTS と DTS-HD、またそのシンボルマークは DTS, Inc. の登録商標です。DTS-HD、DTS-HD マスターオーディオ及び DTS のロゴは DTS, Inc. の商標です。「製品」にはソフトウェアも含みます。©DTS, Inc. 不許複製。

iPod™、iPhone™

iPod は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。
iPhone は、Apple Inc. の商標です。

Bluetooth™

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は商標です。

UniVolume

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

対応する信号

HDMI

本機が受信可能な音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
ビットストリーム（SD オーディオ）	ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ	ブルーレイディスク、HD DVD

- 本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の、HDMI や DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器や DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

本機が伝送可能な映像信号 1)

— 解像度
- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz, 50Hz
- 1080i/60Hz, 50Hz
- 1080p/60Hz, 50Hz, 24Hz

— Deep Color
— x.v.Color
— 3D 映像信号

デジタル音声（光・同軸）

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-96kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video

1)
接続したテレビにより、対応する映像信号は変わります。

準備
接続・初期設定
再生
設定
困ったときは
付録
安全上のご注意

索引

記号

A

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告　この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- **異常なにおいや音がする。**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。
- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機の⏻キーでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。
本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

禁止

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右1cm、上5cm、背面5cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

開口部などに異物を入れたりしない。
火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意　**この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。**

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

注意

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、音量（ボリューム）を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン

禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。
故障の原因になります。

禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
故障の原因になります。

禁止

下記のような場所に置かない。
- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止

手入れするときは、柔らかい布で乾拭きする。合成洗剤や化学ぞうきんで拭いたりしない。
色がはげたり、外装が損傷することがあります。

音を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

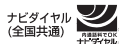
受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ヤマハオーディオ＆ビジュアルサポートページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-4830

FAX （053）463-1127

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋　〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪　〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1